

【一般科目】（コミュニケーション情報学科）

教育課程	2-1	文学	第4学年	2-43	
数学	第1学年	2-2	文学	第4学年	2-44
理科	第1学年	2-3	文学	第4学年	2-45
英語 I A	第1学年	2-4	法学	第4学年	2-46
英語 I B	第1学年	2-5	経済学	第4学年	2-47
英会話 I - 1	第1学年	2-6	体育	第4学年	2-48
英会話 I - 2	第1学年	2-7	日本語特論 II	第4学年	2-49
日本語 1	第1学年	2-8	英語特論 II	第4学年	2-50
日本語 2	第1学年	2-9	英語	第5学年	2-51
人文・社会科学基礎 I A	第1学年	2-10	人間科学特講	第5学年	2-52
人文・社会科学基礎 I B	第1学年	2-11	体育	第5学年	2-53
人文・社会科学基礎 II A	第1学年	2-12	日本語特論 II	第5学年	2-54
人文・社会科学基礎 II B	第1学年	2-13			
保健・体育	第1学年	2-14			
数学	第2学年	2-15			
理科	第2学年	2-16			
英語 II A	第2学年	2-17			
英語 II B	第2学年	2-18			
英会話 II	第2学年	2-19			
日本語 1	第2学年	2-20			
日本語 2	第2学年	2-21			
人文・社会科学概論 A	第2学年	2-22			
人文・社会科学概論 B	第2学年	2-23			
社会科学調査法	第2学年	2-24			
近代経済史	第2学年	2-25			
保健・体育	第2学年	2-26			
美術	第2学年	2-27			
ミニ研究	第2学年	2-28			
数学	第3学年	2-29			
生物	第3学年	2-30			
英語 C - 1	第3学年	2-31			
英語 C - 2	第3学年	2-32			
英会話 C	第3学年	2-33			
英語特論 I	第3学年	2-34			
日本語特論 I	第3学年	2-35			
人文・社会科学演習 A	第3学年	2-36			
人文・社会科学演習 B	第3学年	2-37			
保健・体育	第3学年	2-38			
英語 I - 1	第4学年	2-39			
英語 I - 2	第4学年	2-40			
文学	第4学年	2-41			
文学	第4学年	2-42			

平成20年度学年別教育課程表

【一般科目】その2

コミュニケーション情報学科

授業科目			単位数	学年別					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	数 理 科	数学	8	3	3	2			
		数理	4	2	2				
		生物	2			2			
	外国語	英語 I A	3	3					
		英語 I B	2	2					
		英会話 I 1	2	2					
		英会話 I 2	2	2					
		英語 II A	3		3				
		英語 II B	2		2				
		英会話 II	2		2				
		英語 C 1	2			2			
		英語 C 2	2			2			
		英会話 C	2			2			
		英語特論 I	2			2			
		英語 I 1	2				2*		
英語 I 2	2				2*				
英語	1					1			
国語	日本語 1	4	2	2					
	日本語 2	4	2	2					
	日本語特論 I	2			2				
	日文学	1				1			
人文社会	人文・社会科学基礎 I A	1	1						
	人文・社会科学基礎 I B	1	1						
	人文・社会科学基礎 II A	1	1						
	人文・社会科学基礎 II B	1	1						
	人文・社会科学概論 A	1		1					
	人文・社会科学概論 B	1		1					
	社会科学調査法	1		1					
	近代経済史	1		1					
	人文・社会科学演習 A	1			1				
	人文・社会科学演習 B	1			1				
	法学	2				2			
経済学	2				2				
人間科学特講	2					2			
保健 体育	保健・体育	6	2	2	2				
	体育	3				2	1		
芸術	美術	1		1					
	芸術	1		1					
開設単位数小計			81	24	24	18	11	4	
択 開	日本語特論 II	2					1	1	
	開設単位数小計	2	0	0	0	1	1		
開設単位数合計			83	24	24	18	12	5	
修得可能単位数			83	24	24	18	12	5	

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準第17条4に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
数学 Mathematics	1	3 (90)	必修	通年 週3時間 A	飯間 康則
授業概要	演習を重んじた数学の授業を行う。				
到達目標	① 数式の計算に習熟し、整式の因数分解や平方根の取り扱いができる。 ② 2次方程式、2次不等式が解け、2次関数のグラフがかけられる。 ③ 三角比及び三角関数を理解し、応用として正弦定理、余弦定理を利用することができる。 ④ 順列、組合せを理解し、応用として簡単な確率の計算ができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1). (B-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	必ず復習をし、数多くの演習問題を解くこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	方程式と不等式(式の計算)	多項式の加法と減法			
第2週	方程式と不等式(式の計算)	多項式の乗法			
第3週	方程式と不等式(式の計算)	因数分解			
第4週	方程式と不等式(実数)	実数			
第5週	方程式と不等式(実数)	根号を含む式の計算			
第6週	方程式と不等式	1次方程式と1次不等式			
第7週	前期中間試験				
第8週	方程式と不等式	絶対値と方程式・不等式			
第9週	方程式と不等式	2次方程式			
第10週	2次関数(2次関数のグラフ)	関数とグラフ			
第11週	2次関数(2次関数のグラフ)	2次関数のグラフ			
第12週	2次関数	2次関数の最大・最小			
第13週	2次関数	2次関数の決定			
第14週	2次関数	2次関数のグラフとx軸の位置関係			
第15週	2次関数	2次不等式			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	図形と計量(三角比)	三角比と三角比の相互関係			
第17週	図形と計量(三角比)	三角比の拡張			
第18週	図形と計量(正弦定理と余弦定理)	正弦定理・余弦定理とその応用			
第19週	図形と計量(図形の計量)	三角形の面積・球の体積と表面積			
第20週	場合の数と確率(集合とその要素の個数)	集合			
第21週	場合の数と確率(集合とその要素の個数)	集合の要素の個数			
第22週	後期中間試験				
第23週	場合の数と確率(場合の数)	和の法則・積の法則			
第24週	場合の数と確率(場合の数)	順列			
第25週	場合の数と確率(場合の数)	組合せ			
第26週	場合の数と確率(場合の数)	二項定理			
第27週	場合の数と確率(確率)	事象と確率・確率の基本性質			
第28週	場合の数と確率(確率)	独立な試行と確率・期待値			
第29週	論理と集合	命題・条件と集合			
第30週	論理と集合I	命題と証明			
後期末試験	実施する				
教科書	改訂版 新編数学I(数研出版);改訂版 新編数学A(数研出版);数学I+A 4TRIAL(数研出版)				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%, 課題・小テスト, 授業への参加状況等30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
理科 Science	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	櫛田 正行
授業概要	物質や事象に関して生徒の化学に親しみ、科学技術進歩と人間生活との関わりを学ぶ。原子、分子と化学反応、無機物質・有機化合物を学習する。				
到達目標	①元素の周期表、原子の結合および結合エネルギーから熱化学反応を理解すること。 ②有機化合物の特徴と構造、脂肪族化合物、糖を学ぶこと。 ③また、食物の栄養と健康や環境と生命の関連を理解すること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1). (B-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	科学の基礎的な文語を正しく理解する。原子・分子・イオンなどの基本粒子が物質を形成していることを念頭におき学習する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	物質の構成、物質と人間生活	化学とその役割、物質の成分			
第2週	物質の構成元素	元素、同素体、元素の確認			
第3週	原子の構造と周期律	原子の構造、元素の相互関係			
第4週	実験:成分元素	炎色反応・分光			
第5週	物質を構成する粒子	イオンの生成とエネルギー・イオン結合			
第6週	物質の形成	分子からできる物質、原子からできる物質			
第7週	前期中間試験				
第8週	物質量と濃度	アボガドロ数とモル・アボガドロの法則			
第9週	物質の変化	化学反応式、化学変化と量的関係			
第10週	反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則	熱化学方程式、ヘスの法則			
第11週	問題演習	化学反応式、熱化学方程式の理解			
第12週	酸と塩基の反応	酸と塩基、水素イオン濃度			
第13週	中和と塩、中和滴定	塩とその種類、中和に於ける塩・塩基の量的関係			
第14週	実験	実験:中和滴定による濃度決定			
第15週	演習	6週間の授業を総括し、演習をして理解を深める			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	酸化還元反応	酸化と還元			
第17週	電池、電気分解	種々の電池、電気分解			
第18週	無機物質	非金属元素の単体と化合物			
第19週	種々の化合物	硫黄、窒素、リン、炭素、ケイ素の化合物			
第20週	典型金属元素の単体と化合物	アルカリ金属、アルカリ土類金属とその化合物			
第21週	亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物	亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物			
第22週	後期中間試験				
第23週	遷移元素の単体と化合物	遷移元素とその化合物			
第24週	有機化合物	有機化合物の特徴と構造			
第25週	脂肪族炭化水素	アルカンとシクロアルカン、アルケンとアルキン			
第26週	酸素を含む脂肪族化合物	アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン			
第27週	酸素を含む脂肪族化合物	カルボン酸とエステル、油脂とセッケン			
第28週	芳香族化合物	芳香族炭化水素、酸素を含む芳香族化合物			
第29週	芳香族化合物	窒素を含む芳香族化合物			
第30週	まとめ(学年末試験の解説)	まとめ、化学の学習の意義を考える			
後期期末試験	実施する				
教科書	高等学校 化学 I 佐野博敏 他22名 編 第一学習社、ダイナミックワイド図説化学 堀内和夫他5名 東京書籍				
参考図書	元素111の新知識 桜井 弘 編 講談社				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テストや課題の総点を30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語 I A English I A	1	3 (90)	必修	通年 週 3 時間 B	鳥居 孝栄
授業概要	基礎的な単語、熟語、文法、構文の知識を身につけ、英文の内容を正しく読み取る力を養う。				
到達目標	①基礎的な単語の発音、意味を習得すること。②基礎的な文法、構文を理解すること。③辞書を使いながら、英文の大意を把握できるようになること。④基本的な英語による音声活動を行うことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	辞書を使って予習し、英文の内容を自分なりにとらえてくること。また復習として、単語、熟語、構文の定着に力を入れてほしい。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第 1週	Lesson 1 New Faces, New Places	5文型			
第 2週	Lesson 1 New Faces, New Places	5文型			
第 3週	Lesson 1 New Faces, New Places	不定詞の名詞的用法			
第 4週	Lesson 2 When I Was Sixteen	現在完了形			
第 5週	Lesson 2 When I Was Sixteen	不定詞の形容詞的用法・副詞的用法			
第 6週	Lesson 2 When I Was Sixteen	動名詞、疑問詞節			
第 7週	前期中間試験				
第 8週	Lesson 3 Abu Simbel	関係代名詞			
第 9週	Lesson 3 Abu Simbel	分詞の形容詞的用法			
第10週	Lesson 3 Abu Simbel	S+is+that節			
第11週	Lesson 4 Punana Leo	過去完了形			
第12週	Lesson 4 Punana Leo	過去完了形			
第13週	Lesson 4 Punana Leo	知覚動詞の構文(原形使用)			
第14週	Lesson 4 Punana Leo	seemの用法			
第15週	問題演習	前期の総復習			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	Lesson 5 Diving into Mystery	関係副詞			
第17週	Lesson 5 Diving into Mystery	知覚動詞の構文(分詞使用)			
第18週	Lesson 5 Diving into Mystery	受動態の完了形			
第19週	Lesson 6 Living with Chimpanzees	分詞構文			
第20週	Lesson 6 Living with Chimpanzees	形式主語			
第21週	Lesson 6 Living with Chimpanzees	時制の一致			
第22週	後期中間試験				
第23週	Lesson 7 Not So Long Ago	仮定法過去			
第24週	Lesson 7 Not So Long Ago	間接目的語の後の疑問詞節			
第25週	Lesson 7 Not So Long Ago	付帯状況			
第26週	Lesson 8 Good Ol' Charlie Brown	仮定法過去完了			
第27週	Lesson 8 Good Ol' Charlie Brown	仮定法過去完了			
第28週	Lesson 8 Good Ol' Charlie Brown	no matter+疑問詞			
第29週	Lesson 8 Good Ol' Charlie Brown	be to +不定詞			
第30週	問題演習	後期の総復習			
後期末試験	実施する				
教科書	CROWN English Series [I], 霜崎實、三省堂				
参考図書					
評価方法	定期試験を70%、小テスト・課題等を20%、授業態度等を10%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語 I B English I B	1	2 (60)	必修	通年 週 2 時間 B	大平 克己
授業概要	英語を正しく理解し英語で自分の考えを表現できるように、基礎的な英文法の習得をめざす。高校レベルの英文法について広く浅く1年間でひとつお目を通すことを主眼とする。				
到達目標	①文法の基礎的概念を理解し、英文の組み立てを構造的に把握できるようになる。②主要な構文を習得し、それを応用して英語で自分の考えを表現できるようになる。③日本語と英語の発想法や論理展開の型の違いについておおまかな理解を得る。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	予習の段階で参考書にざっと目を通し、教科書のExerciseを自分なりに解いてから授業に臨むこと。授業で参考書の解説も適宜行い、その内容からも定期試験に出題する。復習では参考書のExerciseも積極的に解いて応用力を養う。参考書の例文は暗唱すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第 1週 第 2週 第 3週 第 4週 第 5週 第 6週 第 7週 第 8週 第 9週 第 10週 第 11週 第 12週 第 13週 第 14週 第 15週 前期期末試験 後期 第 16週 第 17週 第 18週 第 19週 第 20週 第 21週 第 22週 第 23週 第 24週 第 25週 第 26週 第 27週 第 28週 第 29週 第 30週 後期期末試験	<中学の復習テスト> 文の種類(1)(2) 文型(1)(2) 時制(1)(2) 時制(3)(4) 助動詞(1)(2) 助動詞(3) 前期中間試験 受動態(1) 受動態(2) Further Study 1 注意すべき受動態 不定詞(1) 不定詞(2) 不定詞(3) 分詞(1) 分詞(2) 実施する 動名詞 Further Study 2 動名詞を含む慣用表現など 比較(1)(2) 比較(2)(続き)、Further Study 3 慣用表現 関係詞(1) 後期中間試験 関係詞(2) 関係詞(3) Further Study 4 複合関係詞 接続詞(1) 接続詞(2) 仮定法(1) 仮定法(2) Further Study 5 時制の一致と話法 Further Study 6 各種構文 実施する	肯定文・否定文・疑問文/間接疑問文 5文型について 現在形、過去形、進行形、未来の表現 完了形と過去形、現在完了、過去完了、未来完了 can, could, may, might, must, will, shall, would need, used to, ought to, 助動詞+完了形 null 受動態の基本 助動詞を含む受動態、群動詞の受動態、ほか 完了形・進行形の受動態、They say... の受動態 名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法 S+V+O+不定詞、意味上の主語、疑問詞+不定詞 完了形・受動態・進行形の不定詞、慣用表現 形容詞用法、主語や目的語について述べる分詞 分詞構文、独立分詞構文、with + 名詞 + 分詞 動名詞の基本、意味上の主語、完了形・受動態 慣用表現、目的語としての動名詞・不定詞 原級・比較級・最上級を使う比較 原級と比較級で最上級の意味を表す、各種比較表現 主格、目的格 所有格whose, what、関係副詞 関係詞と前置詞、非制限用法 複合関係代名詞、複合関係副詞 等位接続詞、従属接続詞 時・原因・理由、条件・譲歩・目的・結果の副詞節 仮定法過去、仮定法過去完了、I wish...; as if... if...were to... + 原形、if節に代わる各種表現 時制の一致、直接話法と間接話法 いろいろな否定表現、強調・倒置などの表現			
教科書	SEED English Grammar 28 Units、和田 稔編著、文英堂 SEED 総合英語、和田 稔編著、文英堂(授業に持参するが主に参考書として使用する)・				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題等の総点を30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英会話 I-1 English Conversation I-1	1	2 (60)	必修	前期 週4時間 C	坂内 キャシー 渡辺 エリカ
授業概要	The primary focus of this course is spoken English. Students will use English in a variety of "everyday" situations. Written work will supplement these topics.				
到達目標	①Gain fluency in asking and responding to yes/no and wh-questions, and talking about their everyday lives and Japanese culture ②Gain fluency in expressing opinions with supporting reasons ③Develop their ability to make short presentations in English ④Improve their skills at listening for both general and specific information				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	Students are expected to actively participate in various activities in class.				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	Course orientation/classroom English		Orientation/introduction		
第2週	Conversations for meeting people		Greetings/Simple present; "wh" yes/no questions		
第3週	Greetings & Introductions / Conversation Starter		Greetings/Simple present; "wh" yes/no questions		
第4週	Small Talk		Descriptions/adjectives		
第5週	Topic Development with Follow Up Questions		Descriptions/Descriptions, adjectives		
第6週	Adverbs of frequency / Active Listening		Directions/Imperatives; preposition of location		
第7週	Signalling the End and Ending Conversations		Directions/Asking for and giving directions		
第8週	Pronunciation & Listening Exercises		Directions/Asking for and giving directions		
第9週	Role Play Practice		Shopping/Offering help; prices		
第10週	Role Play Presentations		Shopping/Making a request		
第11週	Conversations Asking for Help or Advice		Talking about routines/Adverbs of frequency		
第12週	Conversation Starters / Clarifying Information		Talking about routines/interviewing someone		
第13週	Identifying Yourself & Your Problem		Talking about routines/Health; routines		
第14週	Giving Advice to Resolve Problems		Review		
第15週	Pre-Summer English Activities		Summer vacation/activities		
前期期末試験	実施しない				
教科書	Encounters Book 1, English Edition. Nan'un-do. Maria Shiguemi Ichiyama, Michael P. Critchley et al. ISBN4-523-17405-9 C0082 Now You're Talking. Chris Elvin, EFL Press.				
参考図書					
評価方法	平素の成績(小テスト、課題等)を100%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英会話 I-2 English Conversation I-2	1	2 (60)	必修	後期 週4時間 C	坂内 キャシー 渡辺 エリカ
授業概要	The primary focus of this course is spoken English. Students will use English in a variety of "everyday" situations. Written work will supplement these topics.				
到達目標	①Gain fluency in asking and responding to yes/no and wh-questions, and talking about their everyday lives and Japanese culture ②Gain fluency in expressing opinions with supporting reasons ③Develop their ability to make short presentation in English ④Improve their skill at listening for both general and specific information				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	Students are expected to actively participate in various activities in class.				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	Talking about the Summer Vacation Use of the Present Continuous Telephone English / Listening Exercises Role Play Practice Role Play Presentations Talking about the Weekend Reacting Appropriately Organizing Events in Time Summarizing Weekend Events Topic Development ? Asking/Giving Details Pronunciation & Listening Exercises Role Play Practice Role Play Practice Role Play Presentations English Board Games 実施する	Family/family member; family trees Family/interviewing Appearances/Describing people; adjectives Appearances/Present progressive Appearances/Clothing; patterns Past evenets/Simple past; present perfect Past events/駿ny? recent events Story writing/Use of past tense; story outlines Story writing/Adjectives; connecting words Story writing/presentations Interviews Interviews/presentations Prefernces/Asking for and giving opinions Prefernces/Favorites; singular and plural nouns Conclusions			
教科書	Encounters Book 1, English Edition. Nan'un-do. Maria Shiguemi Ichiyama, Michael P. Critchley et al. ISBN4-523-17405-9 C0082/ Now You're Talking. Chris Elvin, EFL Press.				
参考図書					
評価方法	平素の成績(小テスト、課題等)を100%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語1 Japanese 1	1	2 (60)	必修	前期 週4時間 A	高橋 圭介
授業概要	①「評論文や小説、古典作品の読解」、②「自らの意見を文章にまとめてみる」、③「漢字・語彙等の学習」を通じて、日本語の運用能力を高めることを目的とする。				
到達目標	①筆者の主張を正確に把握し、それに対する自らの意見を明確な日本語で表現することができる。 ②文章の読解や作成を通して、論理的な思考力を身に付ける。 ③日本語に関するさまざまな知識(漢字・語彙・文法等)を身に付ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1). (F-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	授業だけでなく、普段からなるべく多くの文章に触れるよう心がけること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	随想「未来を切り開く力」 評論「知識の扉」 評論「知識の扉」 小説「羅生門」 小説「羅生門」 小説「羅生門」 前期中間試験 評論「自然と人間の間をとおして考える」 評論「自然と人間の間をとおして考える」 古文入門「ねずみの婿とり」 古文入門「絵仏師良秀」 古文入門「阿蘇の史、盗人にあひてのがるること」 評論「『しきり』の文化論」 評論「『しきり』の文化論」 詩「しろい春」他 実施する		比喩表現 論説文の語彙・文体 学ぶことの身体性 時代背景、今昔物語集 場面展開 下人の心情変化 論説文の構成 価値判断の相違 現代仮名遣いと歴史的仮名遣い 古典文法(品詞とその活用) 古典文法(係り結び) ことばによる「しきり」 ものによる「しきり」 詩の表現技法		
教科書	『国語総合』大修館書店、『常用漢字の級別学習コンプリート』京都書房				
参考図書	国語辞典、古語辞典、漢和辞典				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題・平素の成績等を30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語2 Japanese 2	1	2 (60)	必修	後期 週4時間 A	高橋 圭介
授業概要	①「評論文や小説、古典作品の読解」、②「自らの意見を文章にまとめてみる」、③「漢字・語彙等の学習」を通じて、日本語の運用能力を高めることを目的とする。				
到達目標	①筆者の主張を正確に把握し、それに対する自らの意見を明確な日本語で表現することができる。 ②文章の読解や作成を通して、論理的な思考力を身に付ける。 ③日本語に関するさまざまな知識(漢字・語彙・文法等)を身に付ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1). (F-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:(6).				
履修上の注意	授業だけでなく、普段からなるべく多くの文章に触れるよう心がけること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	評論「二一世紀における写真」 評論「二一世紀における写真」 漢文「漢文訓読のきまり」「格言」 漢文「故事成語」五十歩百歩・矛盾 漢文「故事成語」蛇足 さまざまな文章「良識派」他 後期中間試験 評論「メディアとしての顔」 評論「メディアとしての顔」 古文『枕草子』「春はあけぼの」「虫は」 古文『枕草子』「はしたなきもの」「雪のいと高う」 漢文「絶句」「律詩」 日本語「言葉についての新しい認識」 日本語「言葉についての新しい認識」 短歌・俳句 実施する	デジタル化の影響 「決定的瞬間」 送り仮名、返り点、助字、再読文字 書き下し文と現代語訳 書き下し文と現代語訳 敬語 顔の重要性 匿名の社会 『枕草子』について 語句、文法、現代語訳 漢詩の特徴 言語の働き 言語と文化のつながり 短歌・俳句の特徴			
教科書	『国語総合』大修館書店、『常用漢字の級別学習コンプリート』京都書房				
参考図書	国語辞典、古語辞典、漢和辞典				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題・平素の成績等を30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学基礎 I A Introduction to Humanities and Social Sciences I A	1	1 (30)	必修	前期 週 2 時間 B	笠井 哲
授業概要	人生の諸問題を正しく判断できるようになるために、東西の源流思想(古代ギリシア哲学、キリスト教、仏教、中国思想)の基礎にある人間観、すなわち「倫理」を中心に、日本古代・中世の思想(神道と仏教)や青年心理学等についても学習する。				
到達目標	①日本古代・中世の歴史・思想・文化や青年心理学を学ぶことによって、各自アイデンティティを確立することができる。②東西の思想の源流にある哲学・倫理学・宗教だけでなく、文化や習慣等、広義の「倫理」的な事象を理解することができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	「倫理」という学問の性格上、知識を記憶するだけにとどまらずに、自分で考えて判断することが大切である。自分の問題として考えたことを、自分の言葉で表現(レポート)できるようにすること				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第 1週 第 2週 第 3週 第 4週 第 5週 第 6週 第 7週 第 8週 第 9週 第 10週 第 11週 第 12週 第 13週 第 14週 第 15週 前期末試験	倫理とは何か 人間とは何か 青年期の特徴 自己実現とは何か 日本の風土と文化 古代日本の歴史と思想 中世日本の歴史と思想 古代ギリシア哲学(1) 古代ギリシア哲学(2) キリスト教の成立と展開 イスラム教の成立と展開 仏教思想の成立 仏教思想の展開 中国思想の成立と発展 まとめ 実施する		倫理および倫理学に関するさまざまな定義 人間に関するさまざまな定義 モラリウムとアイデンティティの意義 キャリア・ディヴェロップメントの意義 和辻哲郎の『風土』における思想の意義 古代の神々と清明心の意義 日本の仏教、特に鎌倉新仏教の意義 自然哲学者、ソフィスト、ソクラテス プラトン、アリストテレス、ヘレニズム イエス、パウロ、アウグスティヌスの思想 ムハンマドの思想の意義 仏陀(釈迦)の生涯と思想 小乗仏教と大乘仏教の思想的意義 儒家思想と道家思想の意義 青年心理学と倫理学を学ぶ意義		
教科書	哲学・倫理学概論、松島隆裕編、学術図書出版社;哲学的思索への道、笠井貞他、文化書房博文社;精選資料新倫理、令文社				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を70%、課題等の総点を30%として総合的に評価する。				

授業科目名		学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学基礎 I B Introduction to Humanities and Social Sciences I B		1	1 (30)	必修	後期 週 2 時間 B	笠井 哲 木原 淳
授業概要	人生の諸問題を正しく判断できるようになるために、西洋近代(宗教改革、カント、功利主義等)の基本的な思想、すなわち「倫理」を学習する。それとともに、専門職業人に必要な「職業倫理(ビジネス倫理)」について学ぶ。さらに、現代の諸問題を考察する手法を学ぶ。					
到達目標	①西洋近代の哲学・倫理学・宗教だけでなく、文化や習慣等、広義の「倫理」的な事象を理解することができる。 ②①に基づいて、専門職業人の「職業倫理」、特に「ビジネス倫理」を確立し、さらに現代の諸問題を考察できる。					
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).					
履修上の注意	「倫理」という学問の性格上、知識を記憶するだけにとどまらずに、自分で考えて判断することが大切である。自分の問題として考えたことを、自分の言葉で表現(レポート)できるようにすること。					
授業計画	授業項目	理解すべき内容				
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	西洋近代の成立 科学技術思想の成立 生命倫理とは何か? 環境倫理とは何か? 職業倫理とは何か? ビジネス倫理(技術者倫理)とは何か? 後期中間試験 ビジネス倫理(技術者倫理)の事例研究 嘘はなぜ悪い? 誰を助けるべきか? 自由の限界はどこにあるか? 資本主義に倫理はあるか? 平等社会は可能か? 公平な配分は可能か? まとめ 実施する	ルネサンス、宗教改革、科学革命 ベーコンのイデオロギ、デカルトの物心二元論 脳死と臓器移植、QOLと尊厳死 世代間責任倫理、持続可能な開発 伝統を踏まえた現代の職業倫理 内部告発、説明責任、製造物責任法 ビジネス倫理(技術者倫理)に関する事件等の検討 カントの義務倫理 功利主義と平等 J. S. ミルの危害原理、ロックの所有論 M. ウェーバーの資本主義論、リバタリアニズム K. マルクスと社会主義の思想 J. ローレンズの正義の二原理とその批判 倫理を身につけたビジネスマンとして生きる				
教科書	技術者倫理、松島隆裕編、学術図書出版社; 哲学・倫理学概論、松島隆裕編、学術図書出版社; 哲学的思索への道、笠井貞他、文化書房博文社; 精選資料新倫理、令文社					
参考図書						
評価方法	定期試験の成績を70%、課題等の総点を30%として総合的に評価する。					

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学基礎ⅡA Introduction to Humanities and Social Sciences ⅡA	1	1 (30)	必修	前期 週2時間 B	木原 淳
授業概要	鎖国体制動揺の時期から日露戦争までの近代史を概観する。				
到達目標	①19世紀日本の置かれた状況と課題について理解する。 ②明治維新以降の近代化の歩みについて理解する。 ③近代東アジアの国際関係を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (B-1). (C-1). (D-1). (E-1). (F-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	授業を予定している箇所を下読みし、分からない語句・概念を確認しておくこと。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	江戸鎖国体制の動揺	外国船の来航	諸藩の改革 天保の改革 ペリーの来航 安政条約 開国の影響 桜田門外の変 討幕運動の展開 戊辰戦争 廃藩置県 行政制度、軍制の整備 地租改正 金融制度の整備 征韓論 岩倉使節団 西南戦争 国会開設への動き 憲法制定の過程 初期の帝国議会 朝鮮問題 下関講和条約 植民地経営 初期の政党政治 日英同盟 ポーツマス条約 韓国併合 満州経営 近代化を支えた精神		
第2週	江戸鎖国体制の動揺				
第3週	開国と幕末の動乱1				
第4週	開国と幕末の動乱2				
第5週	明治維新				
第6週	中央集権体制の整備				
第7週	殖産興業				
第8週	対外関係の変容				
第9週	土族の反乱と民権運動				
第10週	立憲体制の成立				
第11週	日清戦争				
第12週	日清戦争後の内政と外交				
第13週	日露戦争				
第14週	日露戦争後の国際関係				
第15週	まとめ				
前期期末試験	実施する				
教科書	伊藤純郎他『日本史B』清水書院 『ビジュアルワイド図説日本史』(東京書籍)				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、課題30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学基礎ⅡB Introduction to Humanities and Social Sciences ⅡB	1	1 (30)	必修	後期 週2時間 B	川崎 俊郎
授業概要	第一次世界大戦から高度経済成長までの日本の歴史を概観する				
到達目標	①20世紀における世界での日本の地位を理解する ②20世紀における戦争が日本に与えた影響を理解する ③資本主義と日本社会の関係を理解する				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	授業は配布プリントを中心に進めるので、必ずファイルすること。また課題・レポートは期限・様式などを厳守すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	第一次世界大戦 大正デモクラシー1 大正デモクラシー2 昭和恐慌 日中戦争 太平洋戦争1 太平洋戦争2 戦後復興1 戦後復興2 55年体制 高度経済成長1 高度経済成長2 高度経済成長3 低成長の時代 現代日本を見る眼 実施する	中国・ヨーロッパとの関係、ワシントン体制 政党内閣、天皇機関説、普通選挙 都市と農村、農工間格差、大衆社会 日本経済の弱点、世界恐慌、ファシズム 満蒙問題、貿易問題、英米との対立 ブロック経済、国家総動員態勢、大東亜共栄圏 国民生活の窮乏、統制経済、御前会議 ポツダム宣言、日本国憲法、経済と教育の民主化 朝鮮戦争、経済復興、ドッジ・ライン 保守合同と社会党、60年安保 産業構造の変容、消費の拡大、財政・金融政策 所得倍増計画、公害と環境問題、石油ショック アジア外交の転機、列島改造論 冷戦構造の動揺、バブル経済 授業の総まとめ			
教科書	伊藤純郎ほか、「日本史B」、清水書院				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、レポートおよび課題30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
保健・体育 Health and Physical Education	1	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	根本 昌樹 秋山秀博
授業概要	心身の総合的な発達を目指し、基礎的、基本的な運動技術を習得する。現代社会における健康について心身の機能を中心に理解し、自らの健康を保持増進できる態度を養う。				
到達目標	①各種運動の実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を目指す。 ②公正、協力、責任等の態度を育てる。 ③生涯を通じて継続的に運動ができる態度を養う。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	基礎的な体力・技術トレーニングの際、事故のないよう特に授業前日の健康管理に努めること。また、健康上の問題点については、担当教員に必ず事前に申し出ておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	柔道	柔道受講の心得(オリエンテーション)、柔道場と柔道衣			
第2週	柔道	姿勢・組み方・体捌き・体の移動・崩し・受身			
第3週	柔道	受身・練習の五原則・固技基本動作			
第4週	柔道	受身・膝車・支釣込足			
第5週	柔道	受身・打込・大腰・送足私			
第6週	柔道	受身・打込・投込・大内刈・小内刈・体落・背負投			
第7週	柔道	受身・打込・投込・大外刈・内股・払腰・袈裟固・崩袈裟固			
第8週	柔道	受身・打込・投込・肩固・上四方固・横四方固・縦四方固			
第9週	柔道	受身・打込・投込・投技連続変化・投技乱取・固技乱取			
第10週	柔道	受身・投技乱取・固技乱取・ルール(審判法)の理解			
第11週	柔道	日本伝講道館柔道の歴史と思想			
第12週	柔道	固技試合(体重別) I			
第13週	柔道	固技試合(体重別) II			
第14週	柔道	簡易試合・柔道とJUDO			
第15週	柔道	講道館柔道「投の形」「柔の形」			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	体力テスト	屋内種目			
第17週	体力テスト	屋外種目			
第18週	陸上	ハードル走の技術・測定			
第19週	陸上	三段跳びの技術・測定			
第20週	陸上	ジャベリックオローの技術・測定			
第21週	陸上	3種目総合練習・測定			
第22週	バレーボール	パス練習			
第23週	バレーボール	スパイク・サーブ練習			
第24週	バレーボール	パス・スパイク・サーブ練習			
第25週	バレーボール	総合練習・ゲーム			
第26週	バレーボール	総合練習・ゲーム			
第27週	保健	体のつくりと働き(呼吸器系・循環器系・筋肉骨格系)			
第28週	保健	精神の健康(欲求と適応機制)			
第29週	保健	精神の健康(心身相関・自己実現)			
第30週	保健	現代社会とスポーツ			
後期期末試験	実施しない				
教科書	新保健体育、加賀谷・高石他、大修館				
参考図書	Active Sports総合版、大修館、新保健ノート、大修館				
評価方法	実技評価・レポートを60%、活動記録・課題を40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
数学 Mathematics	2	3 (90)	必修	通年 週3時間 A	飯間 康則
授業概要	演習を重んじた数学の授業を行う。				
到達目標	① 整式の除法, 分数式の計算ができる。 ② 2次方程式の解と係数の関係を理解し, また因数分解を用いて簡単な高次方程式が解ける。 ③ 三角関数の相互関係, 三角関数のグラフ, 三角関数の加法定理を理解する。 ④ 指数, 対数関数を理解し, 計算ができる。 ⑤ 簡単な関数の導関数が計算でき, 関数の増減が調べられる。 ⑥ 簡単な関数の不定積分が計算でき, 図形の面積を求められる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1), (B-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	必ず復習をし, 数多くの演習問題を解く。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	式と証明(整式の除法と分数式) 式と証明(整式の除法と分数式) 式と証明(等式, 不等式の証明) 複素数と方程式(複素数と2次方程式) 複素数と方程式(複素数と2次方程式) 複素数と方程式(複素数と2次方程式) 前期中間試験 複素数と方程式(複素数と2次方程式) 図形と式(直線) 図形と式(直線) 図形と式(円) 三角関数 三角関数 三角関数 三角関数 実施する 指数関数と対数関数(指数関数) 指数関数と対数関数(指数関数) 指数関数と対数関数(対数関数) 微分法と積分法(微分係数と導関数) 微分法と積分法(微分係数と導関数) 微分法と積分法(導関数の応用) 後期中間試験 微分法と積分法(導関数の応用) 微分法と積分法(導関数の応用) 微分法と積分法(積分法) 微分法と積分法(積分法) 微分法と積分法(積分法) 数列 数列(いろいろな数列) 数列(いろいろな数列) 実施する	整式の除法 分数式 恒等式; 等式の証明; 不等式の証明 複素数とその演算 2次方程式 解と係数の関係 高次方程式 数直線上の点; 平面上の点の座標 直線の方程式; 2直線の平行と垂直 円の方程式 一般角と弧度法; 三角関数 三角関数の相互関係 いろいろな角の三角比 三角関数のグラフ; 加法定理とその応用 指数の拡張 指数関数 対数とその性質; 対数関数 平均変化率と微分係数 導関数 接線 関数の増減と極大・極小 関数の最大・最小 不定積分 定積分 定積分と面積 等差数列と等比数列 総和記号; 階差数列 いろいろな数列の和			
教科書	新編数学II(数研出版); 新編数学B(数研出版); 数学II+B 4TRIAL(数研出版)				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%, 課題・小テスト, 授業への参加状況等30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
理科 Science	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	坂本 道夫
授業概要	物理学の基礎を学ぶ。電磁気・波動・運動とエネルギーについて、それらの現象を日常の生活と結びつけて学習する。				
到達目標	①自然の中にひそむ、少数の基本法則を基礎的な数学をもって表現し理解すること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1), (B-4), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	科学の基礎的な文語を正しく理解する。エネルギーの概念をもって事象を考え、基礎的な問題の演習を行い理解を深める。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	電気で使われる単位	電流:A 電圧:V 抵抗: Ω 電力:W			
第2週	オームの法則	オームの法則と抵抗の接続			
第3週	電気のはたらき	ジュール熱、自由電子と電流について			
第4週	電気回路	実験:電球抵抗をふくむ回路			
第5週	モーターの原理	磁気力・磁界および電流と磁界。実験:モーターを作る			
第6週	発電機の原理	磁束の変化と誘導起電力および誘導電流			
第7週	前期中間試験				
第8週	演習	問題演習をしながら6週間の授業を総括する			
第9週	交流	変圧器の構造としくみ			
第10週	電波の発生	電波の発生と受信。電磁波の分類とその利用			
第11週	波動	波長: λ 振幅:A 周期:T 振動数:f 波の速さ:V の関係			
第12週	波の表し方	縦波・横波波のグラフ化と波動方程式			
第13週	波の干渉	波の独立性と重ね合わせの原理と定常波			
第14週	ホイヘンスの原理	波の回折・反射・屈折の作図			
第15週	演習	問題演習をしながら6週間の授業を総括する			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	音波	音の3要素、音の干渉、うなりの現象			
第17週	固有振動	気柱の固有振動と弦の固有振動			
第18週	音速	実験:音さと気柱の共鳴による音速測定			
第19週	ドップラー効果	音源・観測者ともに動くとき、観測される音の振動数			
第20週	光	色と光の波長、反射・屈折および平面鏡のつくる像			
第21週	光の回折と干渉	実験:ダブルスリットと回折格子による光の波長の測定			
第22週	後期中間試験				
第23週	光の分散と偏光	虹のしくみ、スペクトル、偏光			
第24週	物体の運動	速度・加速度・相対速度			
第25週	力	質量と重力、弾性力、浮力、圧力			
第26週	力の合成と分解	3力のつりあい			
第27週	力のつりあい	力のモーメント 物体の重心			
第28週	運動の法則	慣性の法則・運動の法則・作用反作用の法則			
第29週	運動方程式	斜面上の物体の運動および静止摩擦力と動摩擦力			
第30週	仕事とエネルギー	仕事の原理。力学的エネルギー			
後期期末試験	実施する				
教科書	高等学校 物理 I 兵頭申一 福岡 登他14名 啓林館				
参考図書	歴史をかえた物理実験 霜田光一著 丸善				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テストや課題の総点を30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語ⅡA EnglishⅡA	2	3 (90)	必修	通年 週3時間 A	石原 万里
授業概要	語彙、文法、構文、発話の知識を向上させ、読み書きした英語の内容を理解し、情報や考えを英語で伝える基礎的能力を養う。……				
到達目標	①英語の文章を正しく音読できる。 ②英語の文章が伝えようとする内容を正しく理解できる。 ③使用されている語彙、文法、構文が理解できる。……				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:(6).				
履修上の注意	文法の知識と辞書を使って、自分なりに英文の内容をとらえて授業に臨むこと。……				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	Lesson1, Feel the Sound・ Lesson1, Feel the Sound・ Lesson2 Sleeping with Lions・ Lesson2 Sleeping with Lions・ Lesson2 Sleeping with Lions・ Lesson3 Flee the Children・ 前期中間試験 Lesson3 Flee the Children・ Lesson3 Flee the Children・ Lesson4 Fashion・ Lesson4 Fashion・ Lesson5 A Tour of the Brain・ Lesson5 A Tour of the Brain・ Lesson5 A Tour of the Brain・ 問題演習 実施する Lesson6 The Lone Vote・ Lesson6 The Lone Vote・ Lesson6 The Lone Vote・ Lesson7 The Lessons of Easter Island・ Lesson7 The Lessons of Easter Island・ Lesson8 The Future of Cloning・ 後期中間試験 Lesson8 The Future of Cloning・ Lesson8 The Future of Cloning・ Lesson9 The Younger Days of Patch Adams・ Lesson9 The Younger Days of Patch Adams・ Lesson9 The Younger Days of Patch Adams・ Lesson10 Endangered Languages・ Lesson10 Endangered Languages・ 問題演習 実施する	To 不定詞の否定形, 完了形, 受動態・ To 不定詞の受動態・ 動名詞の意味上の主語, ・ 動名詞の完了形 動名詞の否定形 S+V+O+C(過去分詞)・ S+V (be以外)+C(分詞) There is 分詞 分詞構文(過去分詞)・ 独立分詞構文 分詞構文(完了形, 否定形) 関係代名詞の非制限的用法・ 関係副詞の非制限的用法 複合関係詞 前期の総復習 発展的な比較表現・ S+名詞など+whether節 S+V+it+名詞など+that節 S+V(be)+C(that節)・ S+V (be)+C(疑問詞節など)It seems+that節 仮定法過去完了・ 仮定法を含む構文 仮定法現在 時制の一致・ 話法 名詞表現, 無生物主語 倒置・強調表現・ 省略・挿入・同格 後期の総復習			
教科書	Unicorn English Course II 文英堂……				
参考図書	Unicorn English Course II ワークブックAdvanced 文英堂……				
評価方法	定期試験70%、小テスト課題30%で評価する。……				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語ⅡB English ⅡB	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	大平 克己
授業概要	1年次での学習内容をふまえ、高校程度の英文法の全般について、改めてより詳しく学び直す。英語を正しく理解し、自分の考えを表現できるようになるために、理解の徹底と各種表現・構文の定着を図る。				
到達目標	①文法の基本概念を理解し、やや複雑な英文の組み立ても、構造的に把握できるようになる。②発展的な構文も習得し、それを応用してよりの確に英語で考えを表現できるようになる。③日本語と英語の発想法や論理展開の型の違いについて理解し、自分の考えを表現する際に配慮できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	予習の段階で参考書に目を通し、教科書のExerciseを自分なりに解いてから授業に臨むこと。復習では参考書のExerciseも積極的に解いて応用力を養う。参考書のTargetの例文は暗唱すること。授業においても参考書の内容を適宜解説し、定期試験にもそこから出題する。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	英語のしくみ、英語の語順(1)(2)(3)		5文型、肯定文・否定文・疑問文、there構文		
第2週	時制(1)時制(2)		現在・現在進行形、過去・過去進行形、未来の表現		
第3週	完了形(1)(2)		現在完了形、過去完了形、完了進行形、未来完了		
第4週	助動詞(1)(2)		能力・可能、許可、義務・必要、意志、依頼、推量		
第5週	助動詞(3)		推量、過去の習慣、後悔		
第6週	態(1)(2)		受動態、進行形・完了形の受動態、受動態の疑問文		
第7週	前期中間試験				
第8週	Plus 助動詞・態の表現		助動詞の表現、過去分詞のあとの前置詞		
第9週	不定詞(1)(2)		名詞用法、形容詞用法、副詞用法、意味上の主語		
第10週	不定詞(2)(つづき)、不定詞(3)		使役動詞・知覚動詞、自動詞に続く不定詞		
第11週	Plus 不定詞の表現		不定詞の表現、疑問詞につづく不定詞		
第12週	動名詞、Plus 動名詞の表現		動名詞の基本、動名詞の意味上の主語、否定語の位置		
第13週	Plus 動名詞の表現(つづき)、動名詞と不定詞		動名詞と不定詞の使い分け		
第14週	分詞(1)(2)		形容詞用法、主語や目的語について述べる分詞		
第15週	分詞(3)(4)		分詞構文、独立分詞構文、with + 名詞 + 分詞		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Plus 分詞の表現		慣用表現、各種表現		
第17週	関係詞(1)(2)		主格、目的格、所有格、前置詞の位置、what		
第18週	関係詞(3)(4)		関係副詞、複合関係詞		
第19週	比較(1)(2)		原級比較、比較級を使う比較、最上級を使う比較		
第20週	Plus 比較級の表現		各種の比較表現		
第21週	仮定法(1)		仮定法過去、仮定法過去完了		
第22週	後期中間試験				
第23週	仮定法(2)		wish, as ifなど、仮定法を使う表現(1)		
第24週	仮定法(3)		仮定法を使う表現(2)、if節の代わりとなる表現		
第25週	否定		not/never、否定を表す語、部分否定、二重否定		
第26週	時制の一致と話法(1)		時制の一致、直接話法と間接話法		
第27週	話法(2)		疑問文を伝える間接話法、命令文を伝える間接話法		
第28週	Option1 疑問文・感嘆文、Option2 ささまざまな表現		疑問文・感嘆文、さまざまな表現		
第29週	Option3 代名詞		代名詞を使った構文・特殊表現		
第30週	Option4前置詞、Option5 接続詞		前置詞の基本概念、接続詞が示す論理関係		
後期期末試験	実施する				
教科書	Harvest English Grammar (Blue Course) in 30 Lessons、桐原書店編集部編著、桐原書店				
参考図書	Harvest English Grammar (Red Course) in 20 Lessons、桐原書店編集部編著、桐原書店(一年次に購入した教科書。授業に持参し既習事項を適宜参照する) ハーベスト総合英語、鈴木希明編著、桐原書店 (一年次に購入したもの。授業に持参するが主に参考書として活用する)				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題等の総点を30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英会話Ⅱ English Conversation II	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	坂内 キャシー Thomas Davis
授業概要	The primary focus of this course is spoken English. Students will use English in a variety of "everyday" situations. Written work will supplement these topics.				
到達目標	①Gain fluency in asking and responding to yes/no and wh-questions, and talking about their everyday lives and Japanese culture ②Gain fluency in expressing opinions with supporting reasons ③Develop their ability to make short presentations in English ④Improve their skills at listening for both general and specific information				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	Students are expected to actively participate in various activities in class.				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Discussing the Spring Holidays	Present tense of BE/Introducing yourself			
第2週	Making Comparisons	Present tense of Be/Pronunciation, stress			
第3週	Making Comparisonsv	Common wh-questions/Sharing personal info.			
第4週	Making Comparisons	Common wh-questions/Jobs			
第5週	Test on Comparisons	Simple present/Likes and dislikes			
第6週	Talking about Work	Simple present/Food and drink			
第7週	Talking about Work	Frequency adverbs/Habits and routines			
第8週	Test on Work	Frequency adverbs/Sports and exercise			
第9週	Giving Road Directions	Review Units 1-2			
第10週	Giving Road Directions	Review Units 3-4			
第11週	Giving Subway Directions	Present continuous/Present activities			
第12週	Test on Directions	Present continuous/Daily activities			
第13週	Talking about Experiences	Past tense of BE/Problems			
第14週	Talking about Experiences	Past tense of BE/Past events			
第15週	Test on Talking about Experiences	Review test			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	Talking about the Past (summer vacation)	Comparative adjectives/Making comparisons			
第17週	Making Hotel Reservations	Comparative adjectives/Describing differences			
第18週	Checking into a Hotel	Be like and look like/Describing people			
第19週	Presentations (Hotel Situations)	Be like and look like/Appearence and personality			
第20週	Talking about Food (Recipes)	Review Units 5-6			
第21週	Talking about Food	Review Unit 7-8			
第22週	Talking about Food (Describing J. Food)	Can and can't/Cities			
第23週	Talking about Food	Can and can't/Local attractions			
第24週	Restaurants	There is and there are/Talking about places			
第25週	Restaurants	There is and there are/Places around town			
第26週	Restaurants (group presentations)	Simple past/Vacation activities			
第27週	Suggestions and Telephone English	Simple past/Talking about vacations			
第28週	Invitations and Negotiating Arrangements	Going to + verb/Talking about future			
第29週	Presentations (Telephone Invitations)	Going to + verb/Careers and schools			
第30週	English Board Games	Final Exam			
後期末試験	実施する				
教科書	Talk a Lot Book Two, David Martin, EFL Press. Smart Choice (Student Book 1), Oxford University Press.				
参考図書					
評価方法	平素の成績(小テスト、課題等)を100%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語I Japanese 1	2	2 (60)	必修	前期 週4時間 A	高橋 宏宣
授業概要	評論文や小説、古典作品を読み、読解力を養成し、論理的な思考を身につける。				
到達目標	①正確な語彙・文法の知識を身につける。 ②文章の内容を正しく理解できるようにする。 ③具体的な根拠や理由に基づいた、客観的かつ論理的な文章を書くことができるようにする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1), (F-2), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	授業に臨むにあたっては、辞書を引いて予習しておくこと。文中の熟語や慣用表現は、よく復習しておくこと。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週	小説「セメント樽の中の手紙」			労働について	
第2週	評論「『母性』と『父性』の間をゆれる」			日米の文化の差	
第3週	評論「『母性』と『父性』の間をゆれる」			文化と言語背景	
第4週	古文「あづま下り」			平安朝文芸と歌物語	
第5週	古文「あづま下り」			語句と古典文法	
第6週	古文「筒井筒」			語句と現代語訳	
第7週	前期中間試験				
第8週	評論「メディアに軽重はあるか」			透明なメディア	
第9週	評論「メディアに軽重はあるか」			適切なメディアの選択	
第10週	評論「ホンモノのおカネの作り方」			貨幣とは何か	
第11週	評論「ホンモノのおカネの作り方」			貨幣の本質	
第12週	漢文「先從隗始」			故事成語の成り立ち	
第13週	漢文「鶏鳴狗盗」			書き下し文と現代語訳	
第14週	漢文「臥薪嘗胆」			書き下し文と現代語訳	
第15週	漢文「臥薪嘗胆」			書き下し文と現代語訳	
前期期末試験	実施する				
教科書	『国語総合』『現代文1』大修館				
参考図書	国語辞典・古語辞典・漢和辞典(各自で用意すること)				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題・平素の成績等を30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語2 Japanese 2	2	2 (60)	必修	後期 週4時間 A	高橋 宏宣
授業概要	評論文や小説、古典作品を読み、読解力を養成し、論理的な思考を身につける。				
到達目標	①正確な語彙・文法の知識を身につける。 ②文章の内容を正しく理解できるようにする。 ③具体的な根拠や理由に基づいた、客観的かつ論理的な文章を書くことができるようにする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1), (F-2), 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	授業に臨むにあたっては、辞書を引いて予習しておくこと。文中の熟語や慣用表現は、よく復習しておくこと。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	小説「山月記」 小説「山月記」 小説「山月記」 古文「木曾の最期」 古文「木曾の最期」 古文「木曾の最期」 後期中間試験 詩「樹下の二人」他 評論「日本の四季」 評論「日本の四季」 評論「ミロのヴィーナス」 漢文「論語」「孟子」 漢文「論語」「孟子」 漢文「論語」「孟子」 漢文「論語」「孟子」 実施する			中島敦の文学 漢語表現 詩人としての素質 軍記について 語句と古典文法 現代語訳 高村光太郎の詩 日本人の感性 生活の中の四季 欠落の美について 孔子と孟子について 書き下し文 現代語訳 儒家の思想	
教科書	『国語総合』『現代文1』大修館				
参考図書	国語辞典・古語辞典・漢和辞典(各自で用意すること)				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題・平素の成績等を30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学概論A Invitation to Humanities and Social Science A	2	1 (30)	必修	前期 週2時間 B	川崎 俊郎
授業概要	現代の経済活動を理解する上で必要となる基礎的な知識と考え方を教授する				
到達目標	①市場経済の仕組みを理解する ②金融・財政の基礎的な仕組みを理解する ③国民経済の基礎的な仕組みを理解する ④物価および労働問題についての基礎的な知識・仕組みを理解する				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	授業は配布プリント中心に進めるので、なくさずに必ずファイルすること。また課題・レポートは期限・様式を厳守すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	経済体制	資本主義、社会主義、修正資本主義			
第2週	市場経済の仕組み	経済主体、経済循環、価格の自動調節機能			
第3週	市場の構造	完全競争市場、独占市場、寡占市場、寡占の形態			
第4週	金融1	貨幣の機能、直接金融と間接金融、金融機関の種類			
第5週	金融2	信用創造、金融政策、計算演習			
第6週	財政1	予算、租税制度(租税の種類、累進課税制度など)			
第7週	財政2	財政政策、公債、計算演習			
第8週	国民経済1	国民所得の概念、三面等価の原則、経済成長率			
第9週	国民経済2	国民所得及び経済成長率の計算演習			
第10週	景気1	景気循環、景気循環の波			
第11週	景気2	第二次世界大戦後の日本の景気循環			
第12週	物価1	物価指数、インフレーション、デフレーション			
第13週	物価2	インフレーションおよびデフレーションの種類と対策			
第14週	労働問題	失業の種類、失業率とその計算			
第15週	経済を見る眼	授業の総まとめ			
前期期末試験	実施する				
教科書	配布プリントを教科書の代わりとする				
参考図書	清水雅博(2000)『名人の授業 清水の経済攻略 経済理論と時事テーマ』株式会社ナガセ 清水雅博(2004)『一目でわかる 政経ハンドブック』株式会社ナガセ				
評価方法	定期試験の得点を70%、課題・レポートを30%の割合で評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学概論B Invitation to Humanities and Social Science B	2	1 (30)	必修	後期 週2時間 B	木原 淳
授業概要	高校課程「政治・経済」の、政治及び憲法に関わる部分をおこなう。				
到達目標	現代日本社会を支える政治と国際社会に関わる基本的な知識を習得する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (F-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	配布されたプリントは必ずファイルすること。また課題・レポートは期限・様式を守ること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	政治とは何か 代表民主制 各国の政治制度 日本国憲法の成立 日本国憲法の基本原理 基本的人権の保障 国会と内閣 司法権 現代日本の政治(1) 現代日本の政治(2) 国際社会のしくみ 冷戦期の国際政治 日本の安全保障 冷戦後の国際政治 まとめ 実施する		政治と人間 民主制原理 自由主義 議院内閣制 大統領制 ポツダム宣言、憲法改正史 国民主権、平和主義、人権保障 民主制と人権 人権の分類 国会、内閣の権限 司法制度と裁判の構造 メディアと民主制の関わり 55年体制とその崩壊 選挙制度 国際社会の成立と国際法 第二次世界大戦 米ソの対立 自衛隊と日米安全保障条約 冷戦構造の崩壊 9.11テロ 現代社会と私たちの関わり		
教科書	配布プリント、『資料政治・経済』清水書院				
参考図書					
評価方法	定期試験を70%、課題30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
社会科学調査法 Social Science Reserch Methods	2	1 (30)	必修	前期 週2時間 C	川崎 俊郎 笠井哲、吉村忠晴、木原淳
授業概要	社会科学分野を中心に、自ら調査、分析、報告、発表に必要な技能を教授する。				
到達目標	①レポート・論文を作成する上で必要となる、論理的思考を理解できるようになる。②文献やデータの検索と収集、およびその要約ができるようになる。③データ解析の技能を身に付ける。④調査した内容をレポートにまとめるようになる。⑤調査した内容を第三者に発表できるようになる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-3). (A-4). (D-2). (D-3). (F-2). (F-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1). 4). 6).				
履修上の注意	授業は配布プリントを中心に進めるので、必ずファイルすること。また課題・レポートは期限、様式など指示されたことを厳守すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	レポート・論文を書く 論理の展開 論文の要約 学術論文と学術データ 学術論文の検索 問題解決の思考方法 データの分析1 データの分析2 データの分析3 レポートの叙述1 レポートの叙述2 レポートの叙述3 プレゼンテーション1 プレゼンテーション2 全体のまとめ 実施する		レポート・論文の目的、レポート・論文の特徴 論理展開の型、わかりやすく説明する方法 論文構成を理解する、論文の要約をする 学術論文の定義、論文を調べる目的、キーワード 検索の手順、インターネット検索、検索結果の利用 論理的思考法、問題発見の方法、相関と因果 統計数値の基礎、統計数値の入手と利用 統計数値の計算 統計数値を利用したグラフの作成 テーマの決め方、レポート・論文の構成 レポート・論文で用いる叙述 事実と意見の区別、根拠を示した意見の書き方 プレゼンテーションの目的とその方法 プレゼンテーション資料の作成、発表 授業内容の総括		
教科書	配布プリントを教科書の代わりとする。				
参考図書	『大学生のための論理的に書き、プレゼンする技術』菊田千春、北林利治共著、東洋経済新報社『レポート・論文・プレゼン スキルズ レポート・論文執筆の基礎とプレゼンテーション』石坂春秋著、くろしお出版『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ』学習技術研究会編著、くろしお出版				
評価方法	レポートや課題の成績を100%として評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
近代経済史 Modern Economic History	2	1 (30)	必修	後期 週2時間 B	川崎 俊郎
授業概要	産業革命以降の世界の歴史を、経済を中心に学習する				
到達目標	①資本主義社会の基本的な仕組みを理解できる。②世界全体を中心(列強)・半周辺(従属国)・周辺(植民地)の相互関係から理解できる。③中心(列強)におけるヘゲモニーの推移を理解できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	授業は配布プリントを中心に進めるので、必ずファイルすること。また課題・レポートは期限・様式などを厳守すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	産業革命1 産業革命2 パクスブリタニカ1 パクスブリタニカ2 第2次産業革命 アメリカの成長 企業社会の登場 第1次世界大戦 大恐慌 ニューディール1 ニューディール2 第2次世界大戦 パクスアメリカーナ 基軸通貨ドルの動揺 世界経済を見る眼 実施する	産業革命の要因、産業革命の内容、重商主義 産業革命の影響、アダム・スミスの経済思想 製造業から見た世界経済、各国の貿易収支 金融から見た世界経済、各国の資本収支 第2次産業革命の要因と内容、技術と経済の関係 アメリカ経済の特徴、世界におけるアメリカの地位 アメリカ企業、ヨーロッパ企業、企業組織と経営 帝国主義の限界、経済面から見た総力戦 大恐慌の原因と影響、計画経済と市場経済 ニューディールの内容と効果、ケインズの経済思想 ヨーロッパ各国と日本の恐慌対策 ブロック経済、保護貿易と自由貿易 アメリカの経済政策、アメリカ企業の多国籍化 石油ショック、日米欧の関係の変化 授業の総まとめ			
教科書	授業時に配布するプリント教科書の代わりとする				
参考図書	飯田 隆『図説 西洋経済史』(2005)、日本経済評論社				
評価方法	定期試験70%、レポートおよび課題30%で評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
保健・体育 Health and Physical Education	2	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	根本 昌樹 秋山秀博
授業概要	心身の総合的発達を目指し、基礎的、基本的な運動技術を習得する。現代社会における健康について心身の機能を中心に理解し、自らの健康を保持増進できる能力と態度を養う。				
到達目標	①各種運動の実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を目指す。 ②公正、協力、責任等の態度を育てる。 ③生涯を通じて継続的に運動ができる能力を養う。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	基礎的な技術・体力トレーニングの際、事故のないように、とくに授業前日の健康管理に努めること。また健康上の問題点については、担当教員に必ず事前に申し出ておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	陸上	1年次の復習練習			
第2週	陸上	混成競技Ⅰ(ハードル、三段跳)			
第3週	陸上	混成競技Ⅰ(ジャベリックスロー、300m)			
第4週	陸上	混成競技Ⅱ(ハードル、三段跳)			
第5週	陸上	混成競技Ⅱ(ジャベリックスロー、300m)			
第6週	バスケットボール	パス・キャッチ			
第7週	バスケットボール	ドリブルシュート			
第8週	バスケットボール	簡易ゲーム			
第9週	バスケットボール	簡易ゲーム			
第10週	バスケットボール	簡易ゲーム			
第11週	バレーボール	パス・スパイク・サーブ			
第12週	バレーボール	総合練習・簡易ゲーム			
第13週	バレーボール	ゲーム			
第14週	バレーボール	ゲーム			
第15週	バレーボール	ゲーム			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	体力テスト	屋内種目			
第17週	体力テスト	屋外種目			
第18週	サッカー	キック各種			
第19週	サッカー	ドリブル・ヘディング・シュート			
第20週	サッカー	簡易ゲーム			
第21週	サッカー	簡易ゲーム			
第22週	バスケットボール	総合練習			
第23週	バスケットボール	ゲーム			
第24週	バスケットボール	ゲーム			
第25週	バスケットボール	ゲーム			
第26週	バスケットボール	ゲーム			
第27週	保健	現代社会における健康課題と保健学習の目的			
第28週	保健	わが国の健康水準と病気の傾向			
第29週	保健	健康の捉え方とヘルスプロモーションの理念にもとづく活動			
第30週	保健	喫煙と健康			
後期期末試験	実施しない				
教科書	新保健体育、加賀谷・高石他、大修館				
参考図書	Active Sports総合版、大修館、新保健ノート、大修館				
評価方法	実技評価、レポートを60%、活動記録、課題を40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
美術 Fine Arts	2	1 (30)	必修	後期 週2時間 C	高杉 和久
授業概要	自分の手を動かして物事を判断する感性を養い、種々の対象物のデッサンの技術を学ぶ。				
到達目標	①美術の歴史を通して、人間の営みと自然のかかわり合いを考察すること。②社会人としての知性と教養を磨くこと。③職業人としての基礎となるデッサンの技術を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(E-2). (E-3). (E-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	実技においては、自由な創造を第一義に考え、感性の解放をテーマに、楽しみながら創作する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	美術についての初歩の心構え ルネッサンス美術鑑賞 同上 教科書の勉強 同上 手のデッサン 立方体のデッサン 同上 ネジのデッサン 同上 車のデッサン 同上 同上 同上 学生の作品に対する総括的な講評 実施しない	平面と立体に関する描画方法等 「手」をじっくり見ることにより観察力を養う。			
教科書	高校美術1、日本文教出版				
参考図書					
評価方法	平素の成績(作品・課題等)を100%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
ミニ研究 Research Practice	2	1 (30)	必修	前期 週2時間 C	全教員 (特別研究指導教員を除く)
授業概要	指導教員の下で調査、実験、製作など研究活動を展開する。活動内容を確認しながら、問題の発見とその解決方法を学ぶ。活動内容は9月末の発表会で報告する。				
到達目標	① 問題の発見と解決する方法を学ぶ ② 活動内容や結果を報告書にまとめられる。 ③ 活動内容を第三者に伝えられる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応：：(E-1), (E-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：2).				
履修上の注意	低学年のうちに、調べる、まとめる、報告する、発表するなどを体験して、個々の能力を高められるように取り組んで欲しい。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ決定、活動開始(4月～夏休み期間も含む) ・活動内容の記録(週単位など) ・ミニ研究報告書の作成 ・ミニ研究発表会(ポスター形式の発表会 9月末) これまでの発表題名の一部を以下に示す。 二酸化炭素の性質を調べ、その活用法を探ろう、生体機能に関する基礎的調査および実験、戦前における柔道技の変遷、身近なものを使った化学・バイオ実験の開発、知能ロボットの開発と製作、数式処理ソフト作成に挑戦してみよう ルービックキューブで学ぼう、テニスのストリングの張力とボールの跳び方の関係について、英文スキット作りから英語劇へ、スピーカーの自作に挑戦、わたくしたちの生活と高分子材料、陶紙を作ろう、顕微鏡で見てみよう、本の歴史と洋本造り、岡倉天心を通して日本の文化を考える、福島高専生のための自転車事故ハザードマップ作り、屋上緑化を兼ねた夏野菜の水耕栽培、身近な地域の地図情報化～GIS(地理情報システム)の初歩を学ぶ～身近な流れのなぞを解く、常磐炭坑について調べる、理論的な思考能力を身に付けよう、食品にふくまれる酵素のはたらき、「いわき学」をつくる…いわきについてあれこれ考え、調べてみよう、小中学校の授業支援、“時空間世界への招待”－不思議な非線形反応－、CAD学習支援システムの開発、博士の愛した数式、物理実験教材の試作と工夫、家庭排水の水の汚れについて調べてみよう、インドについて調べる、自動車や航空機などの輸送機器の最新技術について、日本語のレトリックについて調べてみよう、いわきの作家－吉野せいの世界－、英語と日本語の違いを捜そう、英語で短編小説を読んでみよう、ハーブの秘密を探る、強い橋構造を創ろう、陸上競技トレーニング補助器具の製作と利用効果、光の性質と光と物質の関係について調べる、誘電材料とその応用に関する調査、教わってないのにどうしてわかるの？－文法知識のなぞ、日本人のお墓の研究、惑星科学～星の王子様の故郷を調べよう、平等院鳳凰堂を組み立てよう。昔のラジオドラマを英語で楽しんじゃおう！、観測する技術～リモートセンシングの仕組みとその応用～自分ならこう教える…“1年数学の教科書”を自分流で書いてみよう。原子力教育教材の製作と出前授業				
教科書	指導教員の指示や調査により各自準備する。				
参考図書	指導教員の指示や調査により各自準備する。				
評価方法	活動状況、ミニ研究発表会の状況を総合評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
数学 Mathematics	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	飯間 康則
授業概要	ベクトル, 行列, 関数の授業を行う。				
到達目標	① ベクトルの概念を理解し和・差・実数倍の演算, 内積の計算を行うことができる。 ② 行列の概念を理解し和・差・実数倍の計算ができ, 一次変換に応用することができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1). (B-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	必ず復習をし, 数多くの演習問題を解くこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ベクトル(平面上のベクトル)	有向線分とベクトル			
第2週	ベクトル(平面上のベクトル)	ベクトルの加法・減法・実数倍			
第3週	ベクトル(平面上のベクトル)	ベクトルの成分			
第4週	ベクトル(平面上のベクトル)	ベクトルの内積			
第5週	ベクトル(ベクトルの応用)	位置ベクトル			
第6週	ベクトル(ベクトルの応用)	図形への応用			
第7週	前期中間試験				
第8週	ベクトル(ベクトルの応用)	ベクトル方程式			
第9週	ベクトル(空間におけるベクトル)	空間における平面と直線			
第10週	ベクトル(空間におけるベクトル)	空間における座標			
第11週	ベクトル(空間におけるベクトル)	空間のベクトル			
第12週	ベクトル(空間におけるベクトル)	空間ベクトルの内積			
第13週	ベクトル(空間におけるベクトル)	位置ベクトル			
第14週	ベクトル(空間におけるベクトル)	空間ベクトルの応用			
第15週	行列とその応用	行列, 行列の相等			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	行列とその応用	行列の和・差・実数倍			
第17週	行列とその応用	行列の積の定義			
第18週	行列とその応用	行列の積の性質			
第19週	行列とその応用	零因子, 逆行列			
第20週	行列とその応用	連立一次方程式と行列			
第21週	行列とその応用	点の移動と行列, 対称移動			
第22週	後期中間試験				
第23週	行列とその応用(点の移動と行列)	回転移動			
第24週	行列とその応用(点の移動と行列)	移動の合成			
第25週	関数	分数関数			
第26週	関数	無理関数			
第27週	関数	合成関数			
第28週	関数	逆関数			
第29週	関数	三角関数の公式			
第30週	関数	演習と復習			
後期期末試験	実施する				
教科書	新編 数学III(旺文社);新編 数学C(旺文社);数学III+Cトラッド(旺文社)				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績70%, 小テスト・課題, 授業への参加状況等の合計を30%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
生物 Biology	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	櫛田 正行
授業概要	細胞の発見からはじめ遺伝子の発見、遺伝子の操作と利用にいたる歴史を学び、遺伝子工学にふれ、生命と倫理について考える。				
到達目標	①科学史上の発見の経緯や歴史の実験を学ぶこと。 ②科学者が何を考え、何を知らうとして研究したかを理解すること。 ③生活に生かせるように、保全生物学を理解すること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-1)、(B-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2).				
履修上の注意	科学の基礎的な文語を正しく理解する。化学的知識・物理学的知識を必要とするので、履修したことを再確認する。季節や環境に応じた生命活動の変化を観察する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	第1章もし、こんな植物があったなら	環境汚染を修復してくれる植物			
第2週	第1章もし、こんな植物があったなら	大気汚染を知らせてくれる植物等			
第3週	第1章もし、こんな植物があったなら	石油原料の代わりになる植物			
第4週	第2章そのような新植物がつけなかったわけ	植物改良の歴史、育種とはどういうことか			
第5週	第2章そのような新植物がつけなかったわけ	メンデルの遺伝法則と生物の種			
第6週	第2章そのような新植物がつけなかったわけ	突然変異			
第7週	前期中間試験				
第8週	第3章夢の実現	分子生物学の発展			
第9週	第3章夢の実現	遺伝子の本体、DNA			
第10週	第3章夢の実現	蛋白質がつくられる仕組み			
第11週	実験:細胞を見る	実験:顕微鏡で細胞核・染色体・赤血球・血流を観察			
第12週	第3章夢の実現	「種の壁」を越える			
第13週	第3章夢の実現	「種の壁」を越える(続き)			
第14週	第1章から第3章までのまとめ	1から3章のまとめ			
第15週	前期末試験の解説	前期のまとめ			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	第4章植物バイオテクノロジーの誕生	植物に異なる種の遺伝子を導入する			
第17週	第4章植物バイオテクノロジーの誕生	導入する遺伝子の工夫、細胞から植物体へ			
第18週	実験:タンパク質の変性	熱変性、強酸による変性、重金属イオンによる変性			
第19週	第4章植物バイオテクノロジーの誕生	植物の遺伝子組換え研究のルール			
第20週	第5章こんな植物ができた	身近になった新植物			
第21週	第5章こんな植物ができた	除草剤でも枯れない植物			
第22週	後期中間試験				
第23週	第5章こんな植物ができた	害虫がつかない植物			
第24週	第5章こんな植物ができた	除草剤で枯れなくて、害虫もつかない植物			
第25週	第5章こんな植物ができた	その他の有用新植物、新植物の存在意義			
第26週	葉の色素の分析	実験:ペーパークロマトグラフィーの原理			
第27週	第6章植物バイオテクノロジーの将来	21世紀に生まれる新植物、分子農業の誕生			
第28週	第6章植物バイオテクノロジーの将来	食べるワクチン、遺伝子組換え技術は何が危険か			
第29週	第6章植物バイオテクノロジーの将来	新植物栽培・環境、遺伝子組換え食品の科学的見地			
第30週	まとめ(学年末試験の解説)	1年のまとめ			
後期期末試験	実施する				
教科書	新植物をつくりだす(ジュニア新書) 岡田吉美 著 岩波書店;総合図説生物 監修 田中隆荘 他2名 第一学習社				
参考図書	生命とは何か 金子邦彦 著 東京大学出版会				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テストや課題の総点を30%として評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語C-1 English C-1	3	2 (60)	必修	前期 週4時間 B	西山 公紀
授業概要	テキストの購読とテキストを使った様々な活動、TOEICテスト対策トレーニングを平行して行う。				
到達目標	①TOEICの出題形式に慣れ、各自が得点力を向上させることができる。 ②テキストに使用されている語彙や構文が理解できる。 ③テキストが伝えようとする内容を理解できる。 ④習得した語彙・構文等を用いて、一定の英語表現(活動)を行うことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	テキストの英文の意味を理解した上で、多くの英文を自分の力で再現できるように努力すること。しっかり復習をして、語彙・構文などの定着を図ること。TOEICにおいてより高い得点を取れるように、英語力を養う努力を欠かさないうこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期末試験	Lesson 1/TOEIC演習1 Lesson 1/TOEIC Listening & Reading 1-2 Lesson 1/ TOEIC Listening & Reading 3 Short Story 1/ Lesson 3/ TOEIC演習2 Lesson 3/TOEIC Listening & Reading 4-5 Lesson 3/TOEIC Listening & Reading 6 前期中間試験 Lesson 4/TOEIC Listening & Reading 7-8 Lesson 4/TOEIC Listening & Reading 9 Lesson 4/TOEIC 演習4 Lesson 4/TOEIC Listening & Reading 10 Rapid Reading 1/ Lesson 6/TOEIC演習5 Lesson 6/TOEIC復習 Lesson 6/TOEIC問題演習 Lesson 6/TOEIC初中級コース中間試験 実施する	論説文の展開、語彙・構文など 論説文の展開、語彙・構文など 論説文の展開、語彙・構文など 物語文の展開、語彙・構文など 新聞記事の展開、語彙・構文など 新聞記事の展開、語彙・構文など null 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 物語文の展開、語彙・構文など 講演の展開、語彙・構文など 講演の展開、語彙・構文など 講演の展開、語彙・構文など			
教科書	1. CROWN ENGLISH READING 霜崎 實著、三省堂 2.速読英単語・必修編、風早 寛著、増進会出版 3.CROWN English Reading WORKBOOK STANDARD 三省堂				
参考図書					
評価方法	定期試験を50%、TOEICを30%、小テスト・課題・授業中の参加状況等を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語C-2 English C-2	3	2 (60)	必修	後期 週4時間 B	西山 公紀
授業概要	テキストの購読とテキストを使った様々な活動、TOEICテスト対策トレーニングを平行して行う。				
到達目標	①TOEICの出題形式に慣れ、各自が得点力を向上させることができる。②テキストに使用されている語彙や構文が理解できる。③テキストが伝えようとする内容を理解できる。④習得した語彙・構文等を用いて、一定の英語表現(活動)を行うことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	テキストの英文の意味を理解した上で繰り返し音読して、多くの英文を自分の力で再現できるように努力すること。しっかり復習をして、語彙・構文等の定着を図ること。TOEICにおいてより高い得点を取れるように、英語力を養う努力を欠かさないこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	Short Story 2/Lesson 8/TOEIC演習6 Lesson 8/TOEIC Listening & Reading 11-12 Lesson 8/TOEIC Listening & Reading 13 Rapid Reading 2/Lesson 9/TOEIC 演習7 Lesson 9/TOEIC Listening & Reading 14-15 Lesson 9/TOEIC Listening & Reading 16 後期中間試験 Lesson 11/TOEIC Listening & Reading 17-18 Lesson 11/TOEIC Listening & Reading 19 Lesson 11/TOEIC演習9 Lesson 11/TOEIC Listening & Reading 20 Lesson 12/TOEIC演習10 Lesson 12/TOEIC演習 Lesson 12/TOEIC問題演習 Lesson 12/TOEIC初中級コース終了試験 実施する	物語文・紀行文の展開、語彙・構文など 紀行文の展開、語彙・構文など 紀行文の展開、語彙・構文など 物語文・論説文の展開、語彙・構文など 論説文の展開、語彙・構文など 論説文の展開、語彙・構文など null インタビュー記事の展開、語彙・構文など インタビュー記事の展開、語彙・構文など インタビュー記事の展開、語彙・構文など インタビュー記事の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など 宣言文の展開、語彙・構文など			
教科書	1. CROWN ENGLISH READING 霜崎實著、三省堂 2. 速読英単語・必修編、風見寛著、増進会出版社 3. CROWN English Reading WORKBOOK STANDARD 三省堂				
参考図書					
評価方法	定期試験を50%TOEICの点数を30%、小テスト・課題・授業中の参加状況を20%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英会話C English Conversation C	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	渡辺 エリカ Thomas Davis
授業概要	This course will focus on using English in a variety of "everyday" situations. The main emphasis will be on spoken English, with students working in small groups to present on a variety of topics. Written work will supplement these presentations.				
到達目標	①Gain fluency in asking and responding to yes/no and wh-questions, and talking about their everyday lives and Japanese culture ②Gain fluency in expressing opinions with supporting reasons ③Develop their ability to make short presentation in English ④Improve their skill at listening for both general and specific information				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	Students are expected to actively participate in various activities in class.				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Haven't we met before/Conversation openings	Agreeing and disagreeing			
第2週	Haven't we met before/Extending conversation	Agreeing and disagreeing			
第3週	I've heard a lot about you/Introducing friends	Adjectives with -ing and -ed			
第4週	I've heard a lot about you/Making small talk	Adjectives with -ing and -ed			
第5週	Where can I get this cleaned	Present perfect/Talking about experiences			
第6週	Where can I get this cleaned/Describing building	Present perfect/Talking about experiences			
第7週	Where can I get this cleaned/Directions	Superlative adjectives/Describing places			
第8週	Where can I get this cleaned/Directions	Superlative adjectives/World geography			
第9週	Where can I get this cleaned/Directions	Review Units 1-2			
第10週	Could I speak to/leaving a message	Review Units 3-4			
第11週	Could I speak to/Calling for information	Adverbial clauses/Describing special events			
第12週	Could I speak to/Calling for information	Adverbial clauses/Birthdays and weddings			
第13週	What can we do?/Identifying a problem	Should and have/Giving advice			
第14週	What can we do?/Identifying a problem	Should and have/Healthy life style			
第15週	1st term review	1st term review test			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	What would you do?/Asking for and giving advice	Too/Not enough/Too many/Much			
第17週	What would you do?/Consequences	Too/Not enough/Too many/Much			
第18週	Haven't you heard yet?/Asking about people	Relative clauses/Describing preferences			
第19週	Haven't you heard yet?/Asking for details	Relative clauses/Appearances and personality			
第20週	Discussing needs/Needs and requirements	Review Units 5-6			
第21週	Discussing needs/Talking about consequences	Review Units 7-8			
第22週	Travel reservations/Asking about hotels/ details	Past continuous/Telling stories			
第23週	Travel reservations/Checking in/ making requests	Past continuous/Accidents and injuries			
第24週	Travel reservations/Checking in/ making requests	May/Might/Could/Can't/Must			
第25週	Travel reservation/Checking in/ making requests	May/Might/Could/Can't/Must			
第26週	If you like shopping.../Getting information	Used to/Talking about past habits			
第27週	If you like shopping.../Discussing possible acti	Used to/School activities			
第28週	Tours and public transportation	If ...clauses with modals/Possibilities			
第29週	Presentation	If ... clauses with modals/Places to live			
第30週	Review and Conclusion	Final review test			
後期期末試験	実施しない				
教科書	Person to Person Book 2, By: Jack C. Richards/ David Bycina; Ingrid Wisniewska, Oxford University Press, ISBN 9780 19430 2159, Smart Choice (Student Book 2), Oxford University Press				
参考図書					
評価方法	平素の成績(小テスト、課題等)を100%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語特論 I Japanese Language Seminar I	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	渡辺 洋太郎
授業概要	NHK衛星放送のニュースをDVDで何度も繰り返して視聴することにより、その内容を理解し、よく使われる英語の表現を覚える。				
到達目標	①英語ニュースの音声に慣れる。②リスニング能力を高める。③中級レベルの英語語彙力を養う。④中級レベルの英文の理解力を養う。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	付属のDVDを自宅で視聴し、各自に割り当てられた Unit 全体の英文とその和訳を print out したものを授業前に提出する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	授業概要説明、Unit 1 "Hashi" of Your Own	「マイ箸」ブーム			
第2週	授業概要説明、Unit 1 "Hashi" of Your Own	「マイ箸」ブーム			
第3週	Unit 2 Things for Free	ゼロ円ビジネス			
第4週	Unit 2 Things for Free	ゼロ円ビジネス			
第5週	Unit 3 Baby Post	「赤ちゃんポスト」の導入			
第6週	Unit 3 Baby Post	「赤ちゃんポスト」の導入			
第7週	前期中間試験				
第8週	Unit 4 Phone Book	携帯小説			
第9週	Unit 4 Phone Book	携帯小説			
第10週	Unit 5 Metabolic Syndrome	内臓脂肪の脅威			
第11週	Unit 5 Metabolic Syndrome	内臓脂肪の脅威			
第12週	Unit 6 Citizen Judges	「裁判員制度」実施上の課題			
第13週	Unit 6 Citizen Judges	「裁判員制度」実施上の課題			
第14週	Unit 7 Eyes on Tokyo	カメラが見た東京の歴史			
第15週	Unit 7 Eyes on Tokyo	カメラが見た東京の歴史			
前期末試験	実施する				
後期 第16週	Unit 8 World Heritage Site	富士山と世界遺産			
第17週	Unit 8 World Heritage Site	富士山と世界遺産			
第18週	Unit 9 Pollen Nation	花粉症の現状と対策			
第19週	Unit 9 Pollen Nation	花粉症の現状と対策			
第20週	Unit 10 Ninety-year-old Champion	90歳の水泳選手			
第21週	Unit 10 Ninety-year-old Champion	90歳の水泳選手			
第22週	後期中間試験				
第23週	Unit 11 Saving Caps Saves Lives	ボトルキャップが命を救う			
第24週	Unit 11 Saving Caps Saves Lives	ボトルキャップが命を救う			
第25週	Unit 12 Branding Japan	「日本ブランド」の海外進出			
第26週	Unit 12 Branding Japan	「日本ブランド」の海外進出			
第27週	Unit 13 Nation Tested	学力低下への歯止め			
第28週	Unit 13 Nation Tested	学力低下への歯止め			
第29週	Unit 14 Japanese Doctor in Myanmar	日本人医師のミャンマーでの活躍			
第30週	Unit 14 Japanese Doctor in Myanmar	日本人医師のミャンマーでの活躍			
後期末試験	実施する				
教科書	What's on Japan 3、山崎達朗・Stella M. Yamazaki、金星堂				
参考図書					
評価方法	定期試験を70%、課題を20%、授業態度等を10%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語特論 I Japanese Language Seminar I	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	高橋 圭介
授業概要	1、2年の学習を踏まえ、より高度な評論文の読解を行う。また、教科書レベルを超えた評論にも触れ、4年以降の学習、研究に備える。				
到達目標	①評論文で展開されている主張を正確に把握できる。 ②評論文の主張に対して自らの意見を持ち、それを明確な日本語で表現することができる。 ③評論文を読み解く上で必要な語彙力を身に付ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1). (F-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	授業の前に本文を一読し、読み取れた内容とよくわからなかった部分とを明らかにしておくこと。また、その過程で意味がわからなかった語彙を(印のついているものに限らず)チェックし、意味を調べておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験 後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	評論「仮面と変身願望」 評論「仮面と変身願望」 評論「仮面と変身願望」 評論「あらまほしき自然」 評論「あらまほしき自然」 評論文読解演習1 前期中間試験 評論「人間の時間について」 評論「人間の時間について」 評論「人間の時間について」 近代の文章「たけくらべ」他 近代の文章「たけくらべ」他 評論「自己演技と表情」 評論「自己演技と表情」 評論文読解演習2 実施する 評論「ラムネ氏のこと」 評論「ラムネ氏のこと」 評論「ラムネ氏のこと」 評論「無常ということ」 評論「無常ということ」 評論文読解演習3 後期中間試験 評論「『的』のつく言葉」 評論「『的』のつく言葉」 評論「『的』のつく言葉」 評論「『である』ことと『する』こと」 評論「『である』ことと『する』こと」 評論「『である』ことと『する』こと」 評論「『である』ことと『する』こと」 評論文読解演習4 実施する	仮面の起源と働き 変身願望 同一視の能力 自然を巡る意識 人間と自然の関係 評論文の構成 普遍的な時間と多面的な時間 垂直の時間と水平の時間 私たちの生活と二つの時間 樋口一葉と「たけくらべ」 文体の比較 儀礼的無関心 日本人のコミュニケーション 主張の把握 ラムネ玉の発明と思想 ラムネ氏不在の村 戯作者の役割 心に残った言葉 「現代人」と「無常」との関係 要旨のまとめ方 日本人独特の感覚 ぼかし表現 「的」の文化 権利の上になむるもの 社会制度と「である」こと、「する」こと 日本の急激な「近代化」 価値倒錯の再転倒 意見の述べ方			
教科書	『精選現代文』大修館書店、『頻出現代文重要語700(改訂版)』桐原書店				
参考図書	国語辞典				
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題・平素の成績等を30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学演習A Seminar on Humanities and Social Science A	3	1 (30)	必修	前期 週2時間 C	吉村 忠晴
授業概要	社会科学および理学・工学で扱われる学際的な分野であるオペレーションズ・リサーチ(OR)のなかからネットワーク問題と施設立地問題をとりあげ、その基礎を学習することにより、問題解決の手法を身につける。				
到達目標	①ネットワーク問題に関する理論・手法を理解し、演習問題を解くことができる。 ②施設立地問題に関する理論・手法を理解し、演習問題を解くことができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(C-1), (C-2), (D-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:4), 6).				
履修上の注意	解を求めること以上に解に至るまでの考え方を重視すること。解に至るまでの正しい手順を身につけ、自分自身で解いていくこと。問題解決の際には、常にPDCAサイクルを実践すること。ネットワーク問題と施設立地問題が、各自の専門分野でどのように応用できるかを意識すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	ORと問題解決	OR(オペレーションズ・リサーチ)、問題解決、PDCAサイクル			
第2週	ネットワーク問題(1)	距離の概念、グラフ理論			
第3週	ネットワーク問題(2)	最小全域木問題、巡回セールスマン問題、費用最小化ネットワーク			
第4週	ネットワーク問題(3)	最短経路問題、距離行列、近接性			
第5週	ネットワーク問題(4)	シュタイナー問題			
第6週	ネットワーク問題(5)	輸送計画法			
第7週	ネットワーク問題(6)	空間的相互作用、重力モデル			
第8週	施設立地問題(1)	1次元空間における商業施設立地(ホテリングの立地モデル、均衡立地)			
第9週	施設立地問題(2)	連続空間における商業施設立地(ボロノイ分割)			
第10週	施設立地問題(3)	格子状ネットワーク空間における商業施設立地(マンハッタン距離)			
第11週	施設立地問題(4)	1次元空間における公共施設立地(メディアンとセンター)			
第12週	施設立地問題(5)	連続空間における公共施設立地(ミニサム点とミニマックス点)			
第13週	施設立地問題(6)	ネットワーク空間における公共施設立地(メディアン問題とセンター問題)			
第14週	施設立地問題(7)	ネットワーク空間における公共施設立地(最大カバー問題)			
第15週	総合演習	ネットワーク問題・立地問題に関する総合演習			
前期期末試験	実施しない				
教科書	配布プリントを使用する。				
参考図書					
評価方法	課題の成績を100%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人文・社会科学演習B Seminar on Humanities and Social Science B	3	1 (30)	必修	後期 週2時間 C	吉村 忠晴 川崎 俊郎
授業概要	都市計画や環境調査、防災、エリアマーケティングなど幅広い分野で利用されているGIS(地理情報システム)のしくみを理解するとともに、GISソフトウェア(ArcGIS)の基本的な操作方法を習得することにより、問題解決・課題探求能力を身につける。				
到達目標	①GISのしくみを理解し、GISソフトウェアの基本的な操作ができる。 ②与えられた問題に対して仮説を設定し、それを実証するために必要な統計データを入手することができる。 ③入手した統計データをもとにGISソフトウェアを利用して統計地図を作成することができる。 ④統計地図の読解・考察についてのレポート作成およびプレゼンテーションができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(B-3), (C-1), (C-2), (D-2), (D-3), (F-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:2), 4), 6).				
履修上の注意	パソコン(Excel, Word, PowerPoint)の基本的操作ができるようにしておくこと。作業は、資料に記されている手順をよく確認しながら行うこと。課題は、指定された様式に則って、期限厳守で提出すること。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	GISの基礎 地図データの入手と保存 ArcGISの基本操作 統計地図の作成(1) 統計地図の作成(2) レイアウト作成 座標系・投影法の変換 統計地図の作成(3) 既存の統計データの地図化 課題演習(1) 課題演習(2) 総合演習(1) 総合演習(2) 総合演習(3) 総合演習(4) 実施しない	GISのしくみ、GISの適用事例、ArcGISの概要、ArcGISの基本用語 地図データの入手、データの追加、マップ・ドキュメントファイルの保存 ツールバーの操作、地図表示の変更、属性テーブルの確認、ファイル管理 統計地図の種類、ディゾルブ、マップチップの表示、図形表現図の作成 統計数値(絶対値と相対値)、フィールド演算、階級区分図の作成 マップエレメントの挿入、テンプレートの利用、マップのエクスポート 属性検索、座標系(投影法)・測地系、座標系(投影法)の変換と表示変更 アドレス・マッチング、XYデータ追加、ドットマップの作成 統計データの入手、データベースの作成、テーブル結合、階級区分図の作成 階級区分図の作成手順の確認と実践 階級区分図の修正、読解・考察のポイント、レポート作成における注意点 仮説の設定、統計データの入手、データベースの作成 相関分析、散布図の作成、テーブル結合、階級区分図の作成 レポート作成、発表用プレゼンテーション作成 口頭発表			
教科書	配布プリントを使用する。				
参考図書	1年次に使用した「情報基礎」の教科書 事例で学ぶGISと地域分析－ArcGISを用いて－、高橋重雄・井上 孝・三條和博・高橋朋一編、古今書院				
評価方法	レポート・課題の成績を100%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
保健・体育 Health and Physical Education	3	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	橋本 彰夫
授業概要	心身の総合的な発達を目指し、基礎的・基本的な運動技術を習得する。				
到達目標	①各種運動の実践を通して、運動技能を高め、強健な心身の発達を目指す。 ②公正、協力、責任等の態度を育てる。 ③生涯を通じて継続的に運動ができる能力を養う。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	基礎的な技術・体力トレーニングの際、事故のないよう、特に授業前日の健康管理につとめること。また、健康上の問題については、担当教員に必ず事前に申し出ておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	テニス	マナー、グリップ、構え方			
第2週	テニス	ストローク(フォア、バック)			
第3週	テニス	ボレー(フォア、バック)			
第4週	テニス	サービス、スマッシュ、ロブ			
第5週	テニス	ルール理解と簡易ゲーム			
第6週	テニス	ゲーム			
第7週	卓球	グリップと構え方、フォアハンド系			
第8週	卓球	バックハンド系、カット系			
第9週	卓球	サービス、サービスレシーブ、フットワーク			
第10週	卓球	ドライブ、ショート、スマッシュ			
第11週	バレーボール	ゲーム			
第12週	バレーボール	ゲーム			
第13週	バレーボール	ゲーム			
第14週	バレーボール	ゲーム			
第15週	バレーボール	ゲーム			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	体力テスト	屋内種目			
第17週	体力テスト	屋外種目			
第18週	卓球	ゲーム			
第19週	卓球	ゲーム			
第20週	卓球	ゲーム			
第21週	卓球	ゲーム			
第22週	卓球	ゲーム			
第23週	バドミントン	グリップと構え方			
第24週	バドミントン	各種ストローク(フォア、バック)			
第25週	バドミントン	(リア、フロント)コートからの各種ショット			
第26週	バドミントン	サービスと簡易ゲーム			
第27週	バドミントン	ルール理解			
第28週	バドミントン	ゲーム			
第29週	バドミントン	ゲーム			
第30週	バドミントン	ゲーム			
後期期末試験	実施しない				
教科書					
参考図書	Active Sports総合版、大修館				
評価方法	実技評価、レポートを60%、活動記録、課題を40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語 I-1 English I-1	4	2 * (30)	必修	前期 週 2 時間 B	石原 万里
授業概要	文法の基礎力を固め、英文を正しく読み取る力を養う。また、TOEIC対策トレーニングを行う。				
到達目標	1、文法の基礎力を身につけ、辞書を使って英文の大意が把握できること。2、TOEICの基礎問題に対応できること。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	文法の知識と辞書を使って、自分なりに英文の内容をとらえて授業に臨むこと。文法ドリルと英単語集から毎回一定範囲の小テストを実施する。自学自習の確認方法ーレポートを定期的に提出させる。……				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第 1週	Lesson1, TOEIC演習・			学習の仕方、TOEICレベル診断テスト・	
第 2週	Lesson1, 文法小テスト、TOEIC演習・			The Origin of Life on Earth・	
第 3週	Lesson2, 文法小テスト、TOEIC演習・			Fossils・	
第 4週	Lesson2, 文法小テスト、TOEIC演習・			Fossils・	
第 5週	Lesson3, 文法小テスト、TOEIC演習・			The Diversity of Life・	
第 6週	Lesson3, 文法小テスト、TOEIC演習・			The Diversity of Life・	
第 7週	中間試験・				
第 8週	Lesson4, 文法小テスト、TOEIC演習・			Endangered and Extinct Species・	
第 9週	Lesson4, 文法小テスト、TOEIC演習・			Endangered and Extinct Species・	
第10週	Lesson5, 文法小テスト、TOEIC演習・			Ancient DNA・	
第11週	Lesson5, 文法小テスト、TOEIC演習・			Ancient DNA・	
第12週	Lesson6, 文法小テスト、TOEIC演習・			Little People・	
第13週	Lesson6, 文法小テスト、TOEIC演習・			Little People・	
第14週	Lesson7, 文法小テスト、TOEIC演習・			Waste Disposal・	
第15週	Lesson7, 文法小テスト、TOEIC演習・			Waste Disposal・	
前期期末試験	実施する				
教科書	Our Unique Planet, Ian Bowring/Ruth Urbom, 成美堂 CHART INSTITUTE、数研出版			チャート式基礎からの新総合英語活用ドリル、	
参考図書	チャート式基礎からの新総合英語、高橋潔・根岸雅史、数研出版(1年次購入) 速読英単語(必修編)風早寛、Z会出版(3年次購入)……				
評価方法	定期試験70%、小テスト15%、課題15%で評価する。……				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語 I-2 English I-2	4	2 * (30)	必修	後期 週2時間 B	石原 万里
授業概要	文法の基礎力を固め、英文を正しく読み取る力を養う。また、TOEIC対策トレーニングを行う。……				
到達目標	1、文法の基礎力を身につけ、辞書を使って英文の大意が把握できること。2、TOEICの基礎問題に対応できること。……				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	文法の知識と辞書を使って、自分なりに英文の内容をとらえて授業に臨むこと。文法ドリルと英単語集から毎回一定範囲の小テストを実施する。自学自習の確認方法ーレポートを定期的に提出させる。……				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	Lesson9, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson9, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson10, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson10, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson11, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson11, 文法小テスト、TOEIC演習・ 後期中間試験 Lesson12, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson12, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson13, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson13, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson14, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson14, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson15, 文法小テスト、TOEIC演習・ Lesson15, 文法小テスト、TOEIC演習・ 実施する		Stem Cells・ Stem Cells・ Malaria・ Malaria・ Superconductivity・ Superconductivity・ Cell Phones・ Cell Phones・ The Formation of Solar System・ The Formation of Solar System・ Volcanoes・ Volcanoes・ Tsunamis・ Tsunamis・		
教科書	Our Unique Planet, Ian Bowring/Ruth Urbom, 成美堂 CHART INSTITUTE、数研出版……		チャート式基礎からの新総合英語活用ドリル、		
参考図書	チャート式基礎からの新総合英語、高橋潔・根岸雅史、数研出版(1年次購入) 速読英単語(必修編)風早寛、Z 会出版(3年次購入)……				
評価方法	定期試験70%、小テスト15%、課題15%で評価する。……				

(注) *印は学修単位 (高等専門学校設置基準17条第4項に基づく単位)

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文学 Japanese Literature	4	1 (30)	必修	後期 週2時間 A	高野 克宏
授業概要	『方丈記』の読解・解釈を通して豊かな言語感覚を養うとともに、先人たちの教養と人生観に接することによって今日的意味を考える。				
到達目標	古文を読解・解釈する基礎的力を身につけるとともに、理解した内容を文章化して表現することができるようになることを目標とする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	『方丈記』の読解・解釈を通して鴨長明の世界観や人生観を、時代背景と関連付けながら理解する。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	『方丈記』を取り巻く文学状況1 『方丈記』を取り巻く文学状況2 『方丈記』解題1 『方丈記』解題2 鴨長明の人生1 鴨長明の人生2 後期中間試験 『方丈記』本文講読1 『方丈記』本文講読2 『方丈記』本文講読3 『方丈記』本文講読4 『方丈記』本文講読5 『方丈記』本文講読6 『方丈記』本文講読7 『方丈記』本文講読8 実施する			文学史における日記・物語・随筆の位置づけ 代表的随筆『枕草子』・『徒然草』について 内容概観 『池亭記』について・題名について 人生の前半と蹉跌 河合社補宜職獲得の失敗・隠遁生活 null 「ゆく河の流れは絶えずして…」 「予ものの心を知れりしより…」 「又治承四年卯月のころ…」 「又治承四年水無月の比…」 「又養和のころとか…」1 「又養和のころとか…」2 「おほかた、この所に住みはじめし時は…」 「抑一期の月かけ傾きて…」	
教科書	岩波文庫「方丈記」市古貞次校注 岩波書店				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績100%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文学 Japanese Literature	4	1 (30)	必修	後期 週2時間 A	高橋 宏宣
授業概要	太宰治の小説を読み、作品世界を解釈する。				
到達目標	①作品に繰り返し現れるパターン、あるいは敢えて書かれていない空白部分といった、作品の内的構造を把握できるようにする。 ②①で把握した内容を、論理的に記述できるようにする。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	テキスト所収以外の作品も読んでみる。気に入った作品は繰り返し読むことが望ましい。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	太宰治概説(1) 太宰治概説(2) 太宰治概説(3) 太宰治概説(4) 「ダス・ゲマイネ」「満願」 「富嶽百景」 後期中間試験 「富嶽百景」 「女生徒」 「女生徒」 「駈込み訴へ」 「駈込み訴へ」 「走れメロス」 「走れメロス」 まとめ 実施する	人と作品 太宰治の生涯 太宰治の生涯 太宰文芸の特質 中期への転換点 否定される富士 人格化される富士 甘えの構造 幸福の仮構 ユダと他の弟子たちとの違い ユダはなぜ裏切ったのか 作中人物の形象化について メロスはなぜ英雄になったのか 太宰治にとっての「故郷」			
教科書	『走れメロス』、太宰治、新潮文庫				
参考図書	『太宰治全集』、筑摩書房				
評価方法	定期試験の成績100%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文学 Japanese Literature	4	1 (30)	必修	後期 週2時間 A	高橋 圭介
授業概要	①日本語をさまざまな角度から観察し、その特徴を探る。 ②日本語と他言語とを比較・対照することにより、それらの共通点・相違点を探る。				
到達目標	①言葉への興味・関心を高める。 ②普段意識していない言語現象を客観的に分析する力を身に付ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	提示される概念等を正確に覚えることよりも、むしろ普段感じている(言葉に関する)素朴な疑問について積極的に考察する姿勢を重視する。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	イントロダクション 日本語の音声1 日本語の音声2 形態論 日本語の文字・表記1 日本語の文字・表記2 後期中間試験 意味論1 意味論2 意味論3 日本語の文法1 日本語の文法2 社会言語学1 社会言語学2 日本語の歴史 実施する	言語学の目的、言語学の諸分野、言語学の歴史 母音、子音、調音法、調音点 日本語(東京方言)のアクセントの特徴、音韻論 形態素、語形成 日本語の文字・表記の特徴、現代仮名遣い 送り仮名の付け方、外来語の表記 言葉の意味とは、成分分析、意義素論 類義語、反義語 多義語、慣用句 文の構造、文法カテゴリー、ヴォイス(受身・使役) テンス(時間を表す表現)、形式と意味の関係 社会方言(男女差、年齢差) 地域方言、敬語 音韻・文字史、文法の変化			
教科書	ハンドアウトを配布する。				
参考図書	益岡隆志『24週日本語文法ツアー』(くろしお出版)、工藤浩他『日本語要説』(ひつじ書房)、町田健・初山洋介『よくわかる言語学入門』(バベルプレス)				
評価方法	定期試験の成績100%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文学 Japanese Literature	4	1 (30)	必修	後期 週2時間 A	中野 弘子
授業概要	近世の浮世草子として比類ない、井原西鶴の文学を通し、ままたらぬ浮世に生きた人間像を読みとる。				
到達目標	実話を題材に描かれた西鶴の『好色五人女』を読み、恋愛を生命と考えた五人女の官能的な情念を読みとる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	西鶴の文体に馴れ親しむためにも音読を大切にす。また、江戸時代特有の言葉を辞書などで調べ、考察する。 (例:大節季、虫出しの神鳴、駒引銭など。)				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	導入、西鶴と浮世草子 巻の1、お夏清十郎 巻の1、お夏清十郎 巻の2、樽屋おさん 巻の2、樽屋おさん 巻の3、暦屋おさん 後期中間試験 巻の3、暦屋おさん 巻の4、八百屋お七 巻の4、八百屋お七 巻の4、八百屋お七 巻の4、八百屋お七 巻の5、お万源五兵衛 巻の5、お万源五兵衛 巻の5、お万源五兵衛 実施する		西鶴像と時代背景の考察 恋は闇夜を昼の国… 命のうちの七百両のかね 恋に涙輪の井戸替え… 木屑の杉ようじ一寸先の命 姿の関守… 身の上の立ち聞 大節季はおもい闇… ふんどしかきたる君様… 雪の花の情け宿… 様子あつてのにわか坊主 連吹きの笛竹息の哀れや… 衆道は両手に散る花… 金銀も持ち余って迷惑。		
教科書	角川文庫ソフィア 暉峻康隆訳注『好色五人女』				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績100%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
文学 Japanese Literature	4	1 (30)	必修	後期 週2時間 A	蛭田 徹
授業概要	『伊勢物語』の講読・解釈を通して、「色好み」の世界に生きる主人公「昔男」のひたむきな愛情の数々と優雅で洗練された<みやび>を理解する。				
到達目標	①それぞれの章段の人物の心理と行動とが、本文叙述とその集約としての和歌とによって、豊かに表現されていることを理解し、②併せて「歌物語」の特質と和歌の役割を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-3). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	記紀歌謡から現代短歌まで受け継がれている和歌は、平安時代の貴族の間では社交上欠かせない教養のひとつであったことを理解する。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
後期 第16週 第17週 第18週 第19週 第20週 第21週 第22週 第23週 第24週 第25週 第26週 第27週 第28週 第29週 第30週 後期期末試験	平安時代の文学について(1) 平安時代の文学について(2) 『伊勢物語』本文購読1 『伊勢物語』本文購読2 『伊勢物語』本文購読3 『伊勢物語』本文購読4 後期中間試験 『伊勢物語』本文購読5 『伊勢物語』本文購読6 『伊勢物語』本文購読7 『伊勢物語』本文購読8 『伊勢物語』本文購読9 『伊勢物語』本文購読10 『伊勢物語』本文購読11 『伊勢物語』本文購読12 実施する			平安文学概観 歌物語を中心に 六十九段 三、四、五、六段 十、十三、十四、十五段 一、二段 五十八、八十四段 八十八、九十一、九十七、百二十五段 十八、十九段 二十一、二十二段 六十、百七段 八十三、百一段 二十四、四十段 四十五、七十一、九十五段	
教科書	岩波文庫『伊勢物語』大津有一校注、岩波書店				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績100%				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
法学 Law	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	木原 淳
授業概要	法的思考と現代日本法(私法)の基礎知識を説明する。 日本国憲法の基礎知識を説明する。				
到達目標	①私法の基礎知識を習得する。 ②日本国憲法に基礎知識を習得する。 ③ルールにしたがって問題解決を図る思考法を理解する。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-2), (A-3), (A-4), (A-5), (C-1), (F-1). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	法制度の背景となる政治、経済、社会の実態を理解すること。				
授業計画	授業項目			理解すべき内容	
前期 第1週	導入			法律学の特徴 法の社会的機能	
第2週	法の概念(1)			法の定義 社会規範としての法	
第3週	法の概念(2)			法の目的 法と正義	
第4週	裁判と法の体系			法曹 民事法と刑事法 公法と私法	
第5週	権利能力の平等			自然人と権利能力、行為能力	
第6週	法人制度			法人制度の意義と分類	
第7週	会社制度			会社制度の概要 会社の分類	
第8週	株式会社			株式会社の経済的機能 株式の意義	
第9週	物権			物権の譲渡 動産と不動産、用益物権	
第10週	担保物権			質権、抵当権、譲渡担保	
第11週	法律行為と契約(1)			心裡留保 虚偽表示	
第12週	法律行為と契約(2)			詐欺 権利外観法理	
第13週	不法行為法			一般的不法行為 特殊的不法行為	
第14週	製造物責任法			過失責任から欠陥責任への移行	
第15週	まとめ			私法を通じた正義の実現	
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	国家と憲法			国家および憲法の内容	
第17週	日本国憲法の成立			日本国憲法典の成立と国際環境	
第18週	国民主権と天皇			国民及び主権の意味 憲法成立の法理	
第19週	平和主義(1)			9条の解釈	
第20週	平和主義(2)			9条関連の判例 憲法判断の回避	
第21週	人権総論			人権の概念と歴史	
第22週	幸福追求権			13条の解釈 新しい人権	
第23週	法の下での平等			尊属殺重罰違憲判決 非婚外子相続規定	
第24週	思想・良心の自由			謝罪広告事件 三菱樹脂事件	
第25週	信教の自由と政教分離(1)			津地鎮祭訴訟 目的効果基準	
第26週	信教の自由と政教分離(2)			靖国関連訴訟	
第27週	表現の自由(1)			公安条例 報道の自由	
第28週	表現の自由(2)			知る権利 プライバシー権	
第29週	司法権と違憲審査基準			二重の基準論とその批判	
第30週	まとめ			立憲主義と正義	
後期期末試験	実施する				
教科書	『コンサイス判例六法』三省堂 伊藤・加藤編『現代法学入門』有斐閣双書				
参考図書	五十嵐清『私法入門』有斐閣 芦部信喜『憲法』岩波書店				
評価方法	定期試験の成績を70%、課題を30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
経済学 Economics	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	吉村 忠晴
授業概要	経済学の基本となる理論、分析手法を学習する。具体的には、ミクロ経済学の家計行動、企業行動、市場メカニズムと、マクロ経済学の国民所得の決定、IS-LM分析を取り上げる。				
到達目標	①家計行動の理論を文章、グラフ、数値計算によって体系的に説明できる。 ②企業行動の理論を文章、グラフ、数値計算によって体系的に説明できる。 ③市場のメカニズムを文章、グラフ、数値計算によって体系的に説明できる。 ④国民所得決定の理論を文章、グラフ、数値計算によって体系的に説明できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1), (A-3), (C-1), (C-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	経済学の学習には、数学に関する基本的知識と計算能力およびグラフの作成・読解力が不可欠となるので、各自復習しておくこと。また、新聞等で常に最新の経済動向を把握しておくこと。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	経済学の課題	経済学の基本問題、経済主体、経済循環、ミクロ経済学とマクロ経済学			
第2週	需要と供給(1)	需要関数と供給関数			
第3週	需要と供給(2)	市場均衡、市場メカニズム			
第4週	需要と供給(3)	需要曲線と供給曲線のシフト、弾力性			
第5週	家計行動の理論(1)	予算制約線、相対価格、予算制約線のシフト			
第6週	家計行動の理論(2)	効用関数、限界効用			
第7週	家計行動の理論(3)	無差別曲線、限界代替率			
第8週	家計行動の理論(4)	最適消費量			
第9週	家計行動の理論(5)	所得効果と代替効果、需要関数の導出			
第10週	企業行動の理論(1)	短期と長期、生産関数、平均生産物と限界生産物			
第11週	企業行動の理論(2)	等産出量曲線、技術的限界代替率、等費用線、最適投入量			
第12週	企業行動の理論(3)	費用関数の導出、短期費用関数、固定費用と可変費用、平均費用と限界費用			
第13週	企業行動の理論(4)	収入関数、最適生産量			
第14週	企業行動の理論(5)	損益分岐点と操業停止点			
第15週	企業行動の理論(6)	短期供給関数の導出			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	完全競争市場(1)	完全競争市場の条件、市場均衡の調整過程			
第17週	完全競争市場(2)	余剰分析			
第18週	完全競争市場(3)	パレート最適、厚生経済学の基本定理			
第19週	不完全競争(1)	独占市場、独占均衡			
第20週	不完全競争(2)	独占の弊害、独占的競争、複占			
第21週	市場の失敗(1)	外部性			
第22週	市場の失敗(2)	公共財、逆選択、モラル・ハザード			
第23週	国民所得決定の理論(1)	国民経済計算、GDP、三面等価の原則、有効需要の原理			
第24週	国民所得決定の理論(2)	ケインズ型消費関数、均衡国民所得の決定、乗数理論、投資乗数			
第25週	国民所得決定の理論(3)	インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ、政府の財政活動、均衡予算乗数			
第26週	投資決定の理論	利子率と割引現在価値、投資の限界効率、投資関数			
第27週	貨幣の需要と供給(1)	貨幣の機能、ハイパワード・マネー、マネー・サプライ、信用創造			
第28週	貨幣の需要と供給(2)	流動性選好理論、均衡利子率の決定、流動性のわな			
第29週	IS-LM分析(1)	IS曲線、LM曲線、財市場と貨幣市場の同時均衡			
第30週	IS-LM分析(2)	財政政策と金融政策の効果、クラウディング・アウト			
後期期末試験	実施する				
教科書	新版ミクロ経済学、嶋村紘輝、成文堂 マクロ経済学の教科書については、授業時に指示する。				
参考図書	例題で学ぶ 初歩からの経済学、白砂堤津耶・森脇祥太、日本評論社 キーワード入門経済学、河村 朗・高屋定美・阿部公一、饒餓野書院				
評価方法	定期試験の成績を70%、課題・小テストの成績を30%として総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
体育 Physical Education	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 C	秋山 秀博 根本昌樹、橋本彰夫、五十嵐幸一
授業概要	種目の特性を理解し、互いに協力して安全に練習やゲームができるようにする。				
到達目標	①種目の特性を理解し、高度な運動技能を習得する。 ②ゲームの運営及び審判法を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	現代社会における余暇の自己開発の視点から、とくに生涯スポーツの現代的意義について問題意識を深めよう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	テニス	ボールとラケットに慣れる、ショートストローク			
第2週	ゴルフ	グリップの握り方、ゴルフの構え、マナー			
第3週	ソフトボール	キャッチボール、トスバッティング			
第4週	テニス	グランドストローク(フォアハンド・バックハンド) ポレー・スマッシュ			
第5週	ゴルフ	グリップ確認、スウィング練習			
第6週	ソフトボール	守備練習、フリーバッティング			
第7週	テニス	パッシングとロブ			
第8週	ゴルフ	スウィング練習			
第9週	ソフトボール	守備練習、フリーバッティング			
第10週	テニス	サービス(フラットサービス・スピンサービス)とレシーブ、ルール説明			
第11週	ゴルフ	ショートアイアンのアプローチ練習			
第12週	ソフトボール	ルール理解、ゲーム			
第13週	テニス	簡易ゲーム(ダブルス2ゲーム先取)			
第14週	体力テスト	屋内種目			
第15週	体力テスト	屋外種目			
前期期末試験	実施しない				
後期 第16週	ゴルフ	ショートアイアンのアプローチ練習			
第17週	ソフトボール	ゲーム			
第18週	テニス	リーグ戦(ダブルス・4ゲーム先取)			
第19週	ゴルフ	ショートアイアンのアプローチ練習			
第20週	ソフトボール	ゲーム			
第21週	テニス	リーグ戦(ダブルス・4ゲーム先取)			
第22週	ゴルフ	ショートアイアンのアプローチ練習			
第23週	ソフトボール	ゲーム			
第24週	卓球	簡易ゲーム(ダブルスのルール説明)			
第25週	バスケットボール	ゲーム			
第26週	バドミントン	ダブルスゲーム			
第27週	卓球	簡易ゲーム(ダブルス・11点1ゲームマッチ)			
第28週	バスケットボール	ゲーム			
第29週	バドミントン	ダブルスゲーム			
第30週	卓球	リーグ戦			
後期期末試験	実施しない				
教科書					
参考図書	Active Sports総合版、大修館				
評価方法	実技評価、レポートを60%、活動記録、課題を40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語特論Ⅱ Japanese Language Seminar Ⅱ	4	1 (30)	選択	前期 週2時間 A	高野 克宏
授業概要	就職・大学編入学試験に出題された読解問題や言語問題に関する語彙・表現を学習する。				
到達目標	SPI言語問題、国語常識問題、長文読解に対応できる言語能力を身に付ける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1)、(F-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	模擬試験を行い、その結果を参考にして困難点や弱点となる事項を集中的に学ぶ。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	同意語・反意語 同音意義・同訓異字・多義語 ことわざ・慣用句 言語問題模擬試験(1) 長文読解(1) 長文読解(2) 前期中間試験 言語関連総合問題(1) 言語関連総合問題(2) 長文読解(3) 長文読解(4) 言語問題模擬試験(2) 故事成語・四字熟語 長文読解(5) 長文読解(6) 実施する	同意語・反意語の組み合わせ 同音異義・同訓異字・多義語の整理 ことわざ・慣用句の整理 第1週から第3週までの内容に関連した模擬試験 文章整序 空欄補充 難読語・敬語ほか 難読語・接続詞 古文の基礎と読解 古文の主旨把握 第8週から第11週までの内容に関連した模擬試験 漢語熟語とその意味 主旨把握 内容合致			
教科書	プリント教材				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、小テストあるいは課題30%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語特論Ⅱ English Seminar Ⅱ	4	2 (60)	必修	通年 週2時間 A	坂内 昌徳
授業概要	様々な題材を扱った論説文を英語で読む。				
到達目標	①論説文の展開が理解できる。 ②テキストに使用されている語彙や構文が理解できる。 ③テキストが伝えようとする内容を理解できる。 ④テキストに使用されている表現を用いながら一定の意思の疎通を図ることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4). (F-5). (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	テキストの英文の意味を理解した上で、繰り返し音読して英文をそのまま頭に入れるように努力してほしい。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	Session 1: What a Painting Can Tell Us	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第2週	Session 1: What a Painting Can Tell Us	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第3週	Session 1: What a Painting Can Tell Us	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第4週	Session 2: Split-Brain Research	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第5週	Session 2: Split-Brain Research	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第6週	Session 2: Split-Brain Research	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第7週	前期中間試験				
第8週	Session 3: The Process of Image Formation	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第9週	Session 3: The Process of Image Formation	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第10週	Session 3: The Process of Image Formation	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第11週	Session 3: The Process of Image Formation	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第12週	Session 4: The Nightly Battle	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第13週	Session 4: The Nightly Battle	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第14週	Session 4: The Nightly Battle	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第15週	Session 4: The Nightly Battle	論説文の展開、語彙・語法・構文			
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	Session 5: The Eiffel Tower	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第17週	Session 5: The Eiffel Tower	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第18週	Session 5: The Eiffel Tower	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第19週	Session 6: The Expanding Universe	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第20週	Session 6: The Expanding Universe	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第21週	Session 6: The Expanding Universe	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第22週	後期中間試験				
第23週	Session 7: The Blind Watchmaker	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第24週	Session 7: The Blind Watchmaker	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第25週	Session 7: The Blind Watchmaker	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第26週	Session 7: The Blind Watchmaker	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第27週	Session 8: The Rise of the Labor Market	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第28週	Session 8: The Rise of the Labor Market	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第29週	Session 8: The Rise of the Labor Market	論説文の展開、語彙・語法・構文			
第30週	Session 8: The Rise of the Labor Market	論説文の展開、語彙・語法・構文			
後期期末試験	実施する				
教科書	The Universe of English, 東京大学教養学部英語教室編、東京大学出版会				
参考図書					
評価方法	定期試験70%、小テスト・課題等30%で評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
英語 English	5	1 (30)	必修	前期 週2時間 A	坂内 昌徳
授業概要	様々な題材を扱った論説文を英語で読む。				
到達目標	①論説文の展開が理解できる。 ②テキストに使用されている語彙や構文が理解できる。 ③テキストが伝えようとする内容を理解できる。 ④テキストに使用されている表現を用いながら一定の意思の疎通を図ることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-4), (F-5), (F-6). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	テキストの英文の意味を理解した上で、繰り返し音読して英文をそのまま頭に入れるように努力してほしい。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	Session 11: Disneyland: America's Sacred Land Session 11: Disneyland: America's Sacred Land Session 11: Disneyland: America's Sacred Land Session 17: Ecology Session 17: Ecology Session 17: Ecology 前期中間試験 Session 14: Teenage Nation Session 14: Teenage Nation Session 14: Teenage Nation Session 20: The Ocean System Session 20: The Ocean System Session 22: The Greenhouse Effect Session 22: The Greenhouse Effect Session 22: The Greenhouse Effect 実施する		論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文 論説文の展開、語彙・語法・構文		
教科書	The Universe of English, 東京大学教養学部英語教室編、東京大学出版会				
参考図書					
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題等を30%として評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
人間科学特講 Human Science Seminar	5	2 (60)	必修	通年 週2時間 B	川崎 俊郎 笠井 哲
授業概要	前期では、明治以降の日本について産業・技術・経済の分野から概観する。後期は科学技術史と技術者倫理(ビジネス倫理)の基本を学び、事例研究で倫理的判断を学習する				
到達目標	①資本主義が日本に与えた影響を理解できる ②資本主義に対応した日本企業の行動を理解できる ③近代以降の日本における技術の受容と開発の概要を理解できる ④技術者倫理(含ビジネス倫理)の基礎を理解するとともに、実事例のグループ討議等の模擬体験学習を通して、倫理的な判断力を身につけることができる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). (A-5). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	授業は配布プリントを中心に配布するので必ずファイルすること。課題・レポートは期限や様式を守ること。グループ討議は、いわばロールプレイであるが、本当に自分の問題と考えて参加すること。				
授業計画	授業項目		理解すべき内容		
前期 第1週	近代経済成長と日本		経済成長、資本主義の特質、江戸時代の経済		
第2週	開港と維新		開港の影響、明治政府の国家観、諸外国の見た日本		
第3週	殖産興業		明治政府の産業政策、お雇い外国人の意義		
第4週	産業化の時代1		日本の産業革命、明治期の企業		
第5週	産業化の時代2		産業革命と貿易、外資の役割、日清・日露戦争		
第6週	産業化の時代3		産業革命期の技術受容、明治期の技術者教育		
第7週	二重構造		農工商格差、企業間格差、地域間格差		
第8週	計画化と民主化1		昭和恐慌、統制経済、第二次世界大戦		
第9週	計画化と民主化2		経済民主化、戦後復興		
第10週	高度経済成長1		高度成長の特質、産業構造、国土開発		
第11週	高度経済成長2		企業投資の効果、家計消費の効果、政府の役割		
第12週	高度経済成長3		公害問題、高度経済成長終了の要因		
第13週	日本企業の軌跡1		資本規模と特徴、経営の特徴、組織の特徴		
第14週	日本企業の軌跡2		日本企業の技術受容、日本企業の技術革新		
第15週	日本経済を見る眼		前期授業の総括		
前期期末試験	実施する				
後期 第16週	17世紀科学革命とは何か		近代科学の誕生、科学革命の背景と意義		
第17週	ベーコンとデカルト		近代哲学と科学技術の成立		
第18週	産業革命と資本主義社会の形成		近代職業倫理と資本主義の精神		
第19週	日本のものづくりと職人の技		技術と技能、技術の伝来		
第20週	二度の世界大戦と科学技術		第一次大戦と化学兵器、第二次大戦と原子爆弾		
第21週	発達した資本主義と発展途上国		人口の爆発、南北格差		
第22週	米ソ冷戦時代の科学技術		核とコンピュータの開発、日本の高度成長と技術		
第23週	豊かな生活と環境への負荷		自然権思想の拡大、宇宙船地球号		
第24週	新しい倫理の課題		ビジネス倫理と技術者倫理、内部告発		
第25週	何のための、誰のための科学技術か		地球全体のための科学技術		
第26週	倫理綱領ないし倫理規定		倫理綱領の意義と規定内容		
第27週	テクノロジーアセスメント		テクノロジーアセスメントとリスクアセスメント		
第28週	科学技術における真理と倫理のダイレンマ		寺田寅彦の思想、科学技術の光と陰		
第29週	説明責任、PL法に関する事例研究		安全性に関する法的・倫理的責任		
第30週	まとめ		専門職業人の使命		
後期期末試験	実施する				
教科書	後期は「技術者倫理」松島隆裕編、学術図書出版、および「日本文化の人間学」新保哲編、北樹出版を使用する。				
参考図書	前期は「高等学校 日本史B」伊藤純郎ほか、清水書院、および「日本経済史」(全8巻)梅村又次ほか編、岩波書店。後期は新聞、ビデオを使用する。				
評価方法	定期試験70%、課題およびレポート30%で評価する				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
体育 Physical Education	5	1 (60)	必修	前期 週2時間 C	秋山 秀博 根本昌樹、五十嵐幸一
授業概要	種目の特性を生かし、より高度な練習やゲームができるようにする。				
到達目標	①各自の特性を生かし、社会人として役立つ専門知識と高度な実践的運動技術を習得する。 ②生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力を身につける。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(A-1). (A-2). (A-3). (A-4). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:1).				
履修上の注意	現代社会における余暇を自己開発の視点から捉えるとともに、生涯スポーツの現代的意義についての問題意識を深めよう。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週	オリエンテーション、班編成	テニス(卓球)ゴルフ(バレーボール)ソフトボール(バドミントン)			
第2週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バレーボール)ソフトボール(バドミントン)			
第3週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バレーボール)ソフトボール(バドミントン)			
第4週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バレーボール)ソフトボール(バドミントン)			
第5週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バレーボール)ソフトボール(バドミントン)			
第6週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バレーボール)ソフトボール(バドミントン)			
第7週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バレーボール)ソフトボール(バドミントン)			
第8週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バスケットボール)ソフトボール(バドミントン)			
第9週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バスケットボール)ソフトボール(バドミントン)			
第10週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バスケットボール)ソフトボール(バドミントン)			
第11週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バスケットボール)ソフトボール(バドミントン)			
第12週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バスケットボール)ソフトボール(バドミントン)			
第13週	各班ごとの体育活動	テニス(卓球)ゴルフ(バスケットボール)ソフトボール(バドミントン)			
第14週	体力テスト	屋内種目			
第15週	体力テスト	屋外種目			
前期期末試験	実施しない				
教科書					
参考図書	Active Sports総合版、大修館				
評価方法	実技評価、レポートを60%、活動記録、課題を40%で総合的に評価する。				

授業科目名	学年	単位(授業時間)	必・選	授業形態	担当教員
日本語特論Ⅱ Japanese Language Seminar II	5	1 (30)	選択	前期 週2時間 A	高橋 圭介
授業概要	卒業論文の執筆、編入学試験など、さまざまな場面において必要とされる文章作成能力を養成する。				
到達目標	①自らの主張を展開するにあたって、適当な表現を選択し、文章化することができる。 ②他者の主張の問題点を指摘した上で、適切な代案を提示できる。				
教育目標との対応	福島高専の教育目標との対応:(F-1), (F-2). 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応:6).				
履修上の注意	日常的にさまざまな文章に触れ、自分が理想とする(書きたいと思う)文章のイメージを作り上げてください。そして、そのイメージ(つまり目標)を常に意識しながら授業に臨んでください。				
授業計画	授業項目	理解すべき内容			
前期 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週 前期期末試験	イントロダクション 小論文の演習 表現面の問題1 表現面の問題2 表現面の問題3 表現面の問題4 前期中間試験 表現面の問題5 表現面の問題6 内容面の問題1 内容面の問題2 要約の方法1 要約の方法2 小論文を書くにあたって1 小論文を書くにあたって2 実施する	「悪文」とその修正、レポート・論文・小論文 問題点の把握 前回のフィードバック、読点の打ち方 語順、助詞の選択 修飾・被修飾、あいまい表現 類義表現の選択、話し言葉と書き言葉 指示語の選択、接続詞の使用 文の長さ、その他の問題 事実と意見 意見の述べ方 要約する上での留意点 要約から主張へ(問題点の指摘) 小論文で求められる要素 議論の深め方			
教科書	ハンドアウトを配布する。				
参考図書	石黒圭『よくわかる文章表現の技術Ⅰ—表現・表記編—』(明治書院)、吉岡友治『大学院大学編入学 社会人入試の小論文—思考のメソッドとまとめ方—』(実務教育出版)				
評価方法	定期試験の成績を70%、課題及び平素の成績を30%として評価する。				